

先祖由緒帳

与板組

御清水町

村越持

松本助兵衛由緒

一、先祖松本大炊之助、於越後萩之城代ニ被差置候節、在番被致候衆之書付所持仕候、其以後信州江諸仕置之将ニ被 仰付罷在候内、從 太閤様御連書被下置候、于今春日与十郎所ニ御座候一、会津江御国替之刻、大炊之助米沢小国之城ニ被差置候、普代之者共残り、于今罷有候、無程庄内大浦之城代被 仰付、御知行三千二百石被下置、大炊之助名を改、伊賀ニ罷成候、右之城ニ而一揆起り、伊賀嫡子伊兵衛共ニ忠信相守、主從不殘相働、城江火を懸、慶長五年十月十一日切腹仕候 ▲伊賀子孫無御座候故、慶長七年、親助兵衛を松本名字ニ被 仰付、三百石被下置候、本名を篠

井と申候、弥七郎弟二御座候故山城召仕候、助兵衛、慶長拾八年御手明十人御預ケ、同拾九年、於大坂上泉主水、西山刑部手負候付而、右両人之組御步行小姓百人、於御陣場御預ケ被成候、後之御陣二は御手明四拾人被 仰付罷登候、何も証拠御座候

一、定勝様御代二御足輕鉄炮組五十人被 仰付、其上三十人頭被

仰付、無程宰配頭被 仰付、寛永拾一年二病死仕候、実子某二

跡式被 仰付、御奉公申上候、正保元年二御加増被下置候

一、綱勝様御代二御足輕鐵組五拾人御加増共二被 仰付、三百石二罷成、

無程三十人頭被 仰付候 ▲御当代二宰配頭被 仰付、御奉公仕候、

親助兵衛他名を継候故、先祖之義委不承伝候、以上

本村造酒由緒

一、曾祖父本村監物、直江大和入道ニ奉公仕、越後新発田黒瀧表

於御陣 景勝様より御感状被下置、于今所持仕候、其以後病死

仕、家督千石祖父造酒ニ被下置、最上御陣ニ中山口ニ而討死仕候、跡

式親監物ニ三百石被下置、山城近習ニ召仕、大坂両御陣ニ罷立候、

一、定勝様御代、御歩行組五拾人被 仰付、其以後御足輕組五拾

人被 仰付、以後三拾人頭被 仰付、無程宰配頭被 仰付、御

加増百石被下置、御奉公相勤候 ▲綱勝様御代二年寄申隠

居仕、家督嫡子拙者ニ三百石被下置、無程御鉄炮御足輕四拾人

被 仰付、御当代ニ三拾人頭被 仰付、御奉公仕候、先祖之儀

上山八郎右衛門子孫七郎右衛門、天明年中郷村出役被

仰付相勤候節、御役被召放候、其節中野与右衛門郡奉行

相務、中野讒言ニ而出役被召放候と相心得、中野江意懇を

含候ニ付、夜中於街道被召捕、猶牢屋敷詰牢入被

仰付候、其後牢貫ケ致、行末不相知候ニ付名字断絶

委は不存候、以上

上山八郎右衛門由緒

一、祖父上山七郎右衛門、越後ニ而越之郡長尾和泉普代ニ御座候、

其後直江大和守江奉公仕由承伝候、右之七郎右衛門高名仕ニ

付而、信綱より首弑つ討取、感状一通、知行被下置墨付一通、于今

所持仕候、七郎右衛門、大坂両御陣ニ罷立候、初は御手明十人被 仰付、

後ニ直江平八人数村越志磨仕配仕罷立候、添人ニ七郎右衛門被

仰付候、七郎右衛門男子無御座ニ付而、御馬廻之内嶋倉源次郎聶

名跡ニ申立、隠居仕候、継目百石被下置候、源次郎後七郎右衛門ニ

罷成、大坂両御陣ニ罷立候、其後御加増被下置、二百石ニ罷成、亥之

年之御上洛ニ御供仕候、其以後御勘氣仕病死仕候、某御奉公

之義、幼少より徳松様御近習ニ被召仕候、御落命以後定勝様

御近習ニ御奉公仕候、綱勝様御代ニ上山名跡被仰付、繼目

百石被下置、与板組江被召加、其後御中之間江被召加、其以後御

使番被仰付、御加増似二百石拝領仕、当春御扶持組被仰

付、御奉公相勤申候、以上、

高梨源五郎由緒

治承四年三月廿八日

一、頼朝公御感状 一通 高梨伊勢入道ニ被下

養和元年十一月六日

一、左馬頭義仲公御感状 一通 高梨外記頭ニ被下

正和五年正月廿日

一、相模守高時公御書 一通 高梨源五郎ニ被下

永正二年正月十五日

一、為景樣御二字被下置御書 一通高梨播磨守二被下

永正二年三年二

一、為景樣御感狀 三通 高梨播磨守二被下

天文廿年正月二日

一、景虎樣御感狀 一通 高梨源三郎二被下

天正六年七年二

一、景勝樣御感狀 三通 高梨外記二被下

永祿年中

一、直江大和守実綱書狀 一通 高梨牛太郎江

永祿十二年十月廿日

一、同人景綱感狀 一通 高梨彦三郎江

元龜二年三月十五日

一、直江式部少輔兼信感狀 一通 右同人江

天正七年五月廿七日

一、直江將監実親知行七百貫判形 一通 高梨外記江

天正十一年九月廿五日

一、直江山城守兼続感狀 一通 高梨外記江

〆拾六通于今所持仕候

右度々被下置様子、銘々ニ書付可申所ニ、事多儀ニ御座候故、

御判物之數計以書付申上候、祖父外記隱居仕付而、家督親

外記ニ無相違被 仰付候、大坂両御陣ニ御供仕候、 綱勝様御

御代ニ御扶持方組被 仰付、御加増百五拾石被下置、三百石ニ而

御奉公仕候、病死仕、嫡子某ニ家督被 仰付、其後百石御加増

被下置、御足輕鎧組五拾人被 仰付、只今御奉公申上候

蓬田逸兵衛由緒

一、会津江御国入之後、祖父蓬田寒松、山城守江被召出、三百石被

下置御抱被成候、其後福嶋最上両御陣、寒松、親逸兵衛兩人

罷立御奉公仕候、福嶋御陣之刻、山城守より感状被下置候、于今

所持仕候 ▲米沢江御国入之後、寒松病死仕付而、親逸兵衛御

当地江罷越、山城守より知行百石被下置候、則倉加野長左衛門より之

状所持仕候 ▲大坂両御陣ニ杉原常陸ニ付添申、親逸兵衛

罷立候、其後御加増百石被下置相果申、家督拙者ニ被

仰付、御当代ニ夜盜組廿人御加増共ニ被 仰付、只今御

奉公申上候、以上

鵜瀨長右衛門由緒

一、定勝様御代寛永十年、祖父鵜瀨長右衛門走廻申品々御

尋ニ付而、差上申留御座候、則今度写申上候、

一、春日山御弓矢之時、子田表善光寺之浦浜ニ而、新潟より登坂内匠

御上米船為登被申候処ニ、御堀より海賊御出シ御上米船御取被成候

刻、春日山より新発田因幡罷出候、御堀よりは甲州衆玉虫方罷出、

御合戦之時分、拙者拾五ニ而罷出候、若輩ニ而相かせき申候とて、

屋形様江被召出、御褒美ニ板物拝領仕候、▲新潟之寄居

城江御出馬之時、本庄越前渡海ニ而参陣被申候、舟せいろの御

番一日一夜被申請、鉄炮せり合被仕候刻も、山城守より拙者被召

寄、萩田源次郎御陣屋ニ而秋広之御脇差直ニ被下置候事

一、新発田中荒町江御出馬之時、馬上拾騎、鎧三百預り罷立候、

池之端取合之刻は拙者一人罷出、御本陣之後古川之川

中ニ而頭を取申候処江、味方もつゝき敵を追上、原中ニ而鎧合

仕候を御本陣より御覽被成候、則被召出、山城守御酌ニ而屋形様

御盃頂戴仕候事 ▲中条之寄居ニ越前所より三潆左近

差置被申候処、新発田因幡今泉口より働出候砌、本庄よりはや

かけ被仕候故、浜之手江因幡のきゝを坊所と申所迄したひ

申候得は、其より城きわ迄返シ被申時分、黒川衆色部衆数多

うたれ申候、其時本庄之手江は道寿斎かかり被申候ニ、度々

返合、拙者しんかり仕候而、無何事味方引わけ申候事

一、庄内江越前出陣之時、馬上拾騎鎧三百預り罷立候、関根

迄取出持候所を打破り被申候刻、中山玄蕃、東禅寺筑前

此兩人武主ニ而除申所ニ、拙者𦵏人したひ申候而、添川方ニ鎧

付申候得は、歩行者二人刀ニ而返合候を、兩人共ニ鎧付申候得は、

𦵏人は除、𦵏人は頭を取申候 ▲右関根を破り申以後、大浦

城攻之時、二之丸ともえ廻輪迄押込申候、鉄炮手負申候事

一、ちやす合戦之時も罷出候得共、大浦ニ而之手所痛申故、

差たる義も不仕候、乍去召連申候、江家市右衛門と申者ニ下

知仕、馬上𦵏騎為討申候 ▲奥州御陣之時、仙北益田之

城攻之時ハ出羽守供仕候処ニ、北の方を御渡し被成候間、其月ニ責、

二重堀中しのきに出羽守馬印相立申候を、御検使ニ大石播磨

被参候而、惣陣一番ニ出羽守責寄候由、山城守江被申上付而、則

拙者被召出、無批類稼仕候由御意被成候事

一、秋田城之助殿家中ニ居候時、比内山田之城ニ籠城仕候時、秋田殿より

加勢をよひてたて仕ニ付而、則城之助殿御舎弟忠次郎殿為加勢

御越被成候而、付城を責落申刻、しほり下ニ而壺人討取申候を、

長井庄助と申者もらい申ニ付而出シ申候を、湊兵右衛門、加成播磨、

初中後被存帰陣ニ、則城之助殿江被申上候得は、七百石之加増ニ而

千石ニ罷成候、右之判形于今所持仕候事 ▲酒田陣之刻も城之助殿より

鉄炮五拾挺預り、自分ニのほり壺本ニ而罷立、相かせき申候

様子は志田修理被存候事 ▲祖父長右衛門、越後御普代ニ御座候、

大坂御陣ニ甥吉兵衛召連罷立申候、御帰陣之上、山城守從

江戸被仰越、拾五人扶持被下置候、吉兵衛義は組外江被召加、

御扶持被下置候事 ▲定勝様御代、長右衛門義、五拾石被下置、

与板組江被召加、無程御加増拝領二百石ニ而無役ニ被 仰付候、

其以後病死仕候、男子無御座ニ付而甥吉兵衛ニ家督被 仰

付、 定勝様御代ニ御加増被下置、二百石ニ罷成、病死仕候、実子

某ニ家督無相違被 仰付、只今迄御奉公仕、十人頭役相

勤申候、以上

椎野九右衛門子孫九右衛門、寛政年中

不調法有之、改易被 仰付候、其後

御徒組江被召出候、椎野伊加太是也、椎野家

大本家也

椎野九右衛門由緒

一、先祖之義、代々越後二罷在御奉公仕候、曾祖父椎野弥七

後二左京と申候、越後二子山二被指置候節、三条之城守金丸

逆心仕時分走廻、御忠功申上候、因之數通之御感状被下置候事

一、景勝様御代、先最上陣之刻佐州江左京被遣、寄騎同心被

差添、於佐渡御知行千八百石被下置、川原田之城二被差

置候、其節彼地御藏方御代官被 仰付被遣候川村彦左衛門

逆心企申付而、椎野同心登坂新兵衛と相談仕、川村討捕

申内談相極申所二、新兵衛、川村方江組替申候故、此義不罷

成遅々仕候處、川村彦左衛門、所々之者共二申合、椎野打取申

候は忠賞は心尽ニ可宛行由謀計をめくらし候故、国中之者共

河村方江降参申、椎野居城江押寄、早々立退、城相渡候へは、

度々申候得共、数日相戦申候、然共大勢之義ニ候得は終難叶、

慶長五年五月十一日ニ椎野左京、嫡子彦惣、次男長松丸、

其外家来共迄居城ニ而切腹仕候事

一、祖父九右衛門儀、左京討死之刻幼少ニ御座候付、下女懷中ニ入、城中

を退候而、同国之内こひへと申所之真言寺ニ隠置、数年送罷在候処ニ、

山城守大俣八左衛門被申付、一家之義ニ候間、左京子孫候者尋候得由

被申付、佐州江参、九右衛門拾壺之時米沢江召連、山城兼続之後

百五拾石被下置候、定勝様御代、御加増被下置二百石ニ罷成、

其後御鉄炮御足輕五拾人被仰付、三百石ニ罷成候、後三拾人頭被

仰付、綱勝様御代迄御奉公申上候、先祖被下置候御感状は

左京討死之刻紛失仕候 ▲寛永十年、定勝様御代、先祖

書付差上申留、今度写申上候事 ▲九右衛門義、隠居仕、嫡子清右衛門ニ

家督百石被仰付、次男弥七ニ五拾石被下置候、親清右衛門、寛

文元年、御加増百石被下置、御扶持方組被仰付、御加増百石

被下置三百石ニ罷成、無程病死仕、家督拙者ニ被仰付、只今十

人頭役仕、御奉公相勤申候、以上、

塩井次郎左衛門由緒

一、祖父塩井玄蕃、越後之内竹町と申所ニ罷在候、其時分京都

高麗御陣之御供相勤申候、其後会津御国替之刻御供仕、信夫

之内庭坂ニ被指置候、其節福嶋一乱之刻籠城仕申候、其以後

御知行百三拾石被下置候、玄蕃隱居仕、父次郎左衛門ニ無相違跡式

被仰付、大坂御陣之御供相勤申候、其後米沢江御引越、御加増

被下置二百石ニ罷成候、其以後御扶持方組被仰付、御加増拝領

三百石ニ而御奉公仕、年寄隱居仕候、某ニ家督被仰付、只今拾

人頭役相勤申候、以上、

坂田久兵衛由緒

一、先祖之義、代々信州ニ住居仕候由申伝候、祖父采女若年之時分より

親和泉同前ニ武田勝頼公御手ニ罷在、其後天正十年三月、御当

家様信州御手ニ入申時分より走廻御奉公仕候趣

一、信州四郡御手ニ入申時分より御当家様江御奉公申上、須田左衛門

手ニ罷在節、仙見と申地ニ小田切四郎太郎在城之砌、為加勢足輕百

人余預り在番仕候、此節夜調儀ニ敵働出申を引口ニしたひ、首

数式拾式采女手江討捕申候事 ▲信州小見之城責之時、首

壱ツ討捕申候、其後真田領上田原ニ須田左衛門ニ被差添、采女罷

在時分、真田境坂木と申所ニ而乗込、首壱ツ取申候事

一、五十公野御取巻之節、安立と申者と采女兩人忍ひ入、火をかけ

申ニ付而、敵之持口破申候事 ▲佐渡御陣ニ而一番筆ニ付渡海仕、

沢根江上り申色々走廻申事 ▲高麗御陣ニも番船一艘乗取、

生捕両人仕候事 ▲関東御陣、松枝、八王寺両地之城責之時、首

壺ツ取、御実見ニ入被召出、御盃頂戴仕候事 ▲最上御陣之時は

足輕并走破廿人御預ヶ被成候、長谷堂表ニ而上泉主水討死仕候

刻、弥敵したひ申候時分、采女走廻首二ツ討取申候証跡、篠井

弥七郎、元貞両人ニ御座候事 ▲大坂御陣廿六日之御戦之節、組

討仕候義、松本助兵衛証跡ニ御座候、山城帰陣之以後鉄炮廿丁

組ニは二村甚内、角屋半右衛門両組預り申候事

一、定勝様御尋之時分、書付差上申候留書を以相調申上候事

一、采女年寄隠居仕、嫡子縫殿右衛門ニ家督二百石被下置候、其後采女

義 定勝様御代ニ隠居仕、以後被召出、新知二百石拝領仕、寛永

九年新戸御城代被 仰付、正保元年病死仕候事

一、采女跡式親五左衛門ニ被 仰付、御奉公相勤申候、明暦貳年ニ江戸

御城役被 仰付、二百五拾石御加増拝領仕、其後寛文三年ニ二百石

御加増被下置、五百石ニ罷成、十五年江戸御役義相勤死去仕候、某

義、五左衛門在世之節、新御扶持被下置、御中間並ニ被召加、御奉

公相勤候、五左衛門死去仕ニ付而、家督拙者ニ被 仰付、与板組ニ被召

加、御奉公申上候、以上

小幡弥左衛門由緒

一、先祖代々信州ニ罷在候、曾祖父小幡山城守、天文年中ニ

御当家様御手ニ付申度々御注進仕ニ付而、謙信様御意を以、

關東赤石之城ニ被差置候事 ▲永祿拾年、小田中務太夫逆

心致、下総江立除、御当家様御持口之由良今村之取手ニ向、

種々不儀之働仕由被聞召上、小幡山城赤石之城江小田中務押ニ

被差置候、其節氏康公南方より御出張之处追扨申、并小田今村之

取手ニ向、敵数多討捕生捕廿余馬以下迄首ニ相添、上野倉内江

注進仕候付而、謙信様より御感状被下置、于今所持仕候 ▲其以後關

東ニ罷在候処ニ、景勝様御代ニ信州被遣候、勝頼、信長両将信州江

御働之節、御忠節申上候、依之為御加増上倉三河分拝領仕候、本田

石見跡同心分共ニ被下置、飯山之実城ニ可被差置御書、于今所持仕候、

并信州持伝申知行安堵之御朱印、天正拾年ニ二通頂戴仕、于今所持仕候、

一、天正十年六月、信長御生害被成、信州四郡御手二入御納馬之節、

小幡山城越国江被召連二付而、信州知行分諸役御免許之御朱印、

于今所持仕候、▲山城義、越後江罷越、已後小幡下野二罷成候、下野子共

兩人御座候、小幡五左衛門、同右馬允と申候、五左衛門は御馬廻二而三十人頭

被 仰付候、右馬允儀は開地貳百石別而致拝領御用相達罷有、

病死仕候、跡式村山左近子弥五右衛門聲名跡二被 仰付、貳百石無

相違被下置候、其後戌之年御上洛之御供仕候、其後 綱勝様御代二

鎧御足輕組五拾人被 仰付、御奉公申上、病死仕、嫡子某二家督

被 仰付、御奉公申上候、以上

一、藏田五郎左衛門と申候者、拙者より五代已前ニ御座候、越後御普代身

立如何様ニ被召遣候哉、承伝不申候、併 輝虎様御用被 仰付、

御書三通于今所持仕候 ▲五郎左衛門嫡子清左衛門と申候、御奉公

之品承届不申候 ▲清左衛門嫡子甚助、会津江御国替之節御供

仕、御当地江罷越候、御扶持御切米被下置、志田修理中間番仕、

修理死去以後、 定勝様御代ニ御知行五拾石拝領仕、御作事屋

頭被 仰付、其後御加増百石拝領仕相勤、已後病死仕候、嫡子

七兵衛義は右甚助御扶持御切米被下置、来次左近役所ニ而御

用相達申候、祖父甚助死去仕、七兵衛嫡子拙者ニ家督無相違被

仰付、御奉公申上候、以上

梅沢与五左衛門由緒

一、先祖梅沢雅樂助、越後之内莅戸ニ罷在、代々与板普代ニ御座候、

梅沢義は与板家老之輩、代々与板之実也卜、景勝様高梨外記ニ

被下置御書ニ有之候、梅沢惣助、同牛之助兩人之子共ニ跡式相渡、

隠居仕候、其已後惣助義、御館御陣、新発田御陣、最上御陣ニも罷

越、最上之鳥屋加森城ニ而討死仕候、其已後親惣助五拾石被下置、

庭坂江被遣候、拙者義は別而御扶持被下置、御奉公仕候、惣助隠居

仕家督某ニ被仰付、御奉公仕候、綱勝様御代、御加増被下置、

貳百石ニ而御奉公申上候、其已後福嶋並ニ知行被召上、御合力米被

下置付而御訴訟申上、只今五拾石被下置、御奉公申上候、以上

平塚仁兵衛由緒

一、祖父平塚弥左衛門、越後より小国江参候刻、直江山城守知行八拾石被下置、新宿江致在番候処ニ、改易ニ被 仰付病死仕候、実子清七掛入石中山ニ横田終安城代ニ罷在候時分、慶長五年最上合戦ニ終安手ニ而首一ツ高名仕候、為御褒美御扶持方被下置、其節仁兵衛ニ罷成候、 定勝様御代、御知行五拾石被下置、無程御加増拝領式百石ニ而御奉公仕候、致病死、実子拙者ニ無相違家督被仰付、御奉公仕候、先祖之義委承伝不申候、以上、

森吉右衛門由緒

一、祖父森善之丞、生国越中之者ニ御座候、文禄三年ニ直江山城守

所江奉公仕候、於越後北条之内五拾石之处拝領仕候、則山城守

御判形所持仕候 ▲会津江御国替以後、慶長四年九月廿一日、

米沢ニ而時庭村百石被下置候、春日右衛門本村造酒両墨印

所持仕候、其已後本田安房殿御当地江御出ニ付而、与板組より馬上

拾五騎御付被成候、祖父善之丞ニ御加増百石被下置候、慶長十二年ニ

大和守御判形所持仕候、大和守賀州江罕人被申付而、右之十五人之

者共加増之分被召上、本知百石ニ罷成候而、大坂御陣ニ罷立、翌年

之御陣ニ親善兵衛義は山城守小姓並ニ親子共ニ罷立候、其以後

祖父跡式実子善兵衛ニ百石被下置、御奉公申上候

一、定勝様御代ニ御加増被下置、貳百石ニ罷成候、其後御勘定頭被

仰付、無程御納戸頭被 仰付候、其以後隱居仕、拙者家督無相違

被 仰付、御奉公申上候、以上

中俣兵左衛門由緒

一、祖父中俣兵部、信濃ニ而御知行百石被下置、御奉公申上所ニ、御国

替故小国ニ被差置、其後兵部相果、跡式実子兵左衛門若輩ゆへ

知行被召上、御扶持被下置、 定勝様御代ニ御知行百石拝領仕、其

後御加増被下置、貳百石ニ罷成候、已後御使番被 仰付、三百石ニ而相勤

申候、後ニ御足輕組五拾人被 仰付、御奉公申上候、無程隱居仕、拙者ニ

家督被 仰付、只今御奉公申上候、以上

山崎惣左衛門由緒

一、祖父山崎連兵衛隱居仕時分、代々御奉公申上候付而、惣領連兵衛二百石、親五左衛門ニ御扶持被下置、定勝様御代ニ御歩行御奉公仕、其已後御中之間江被召加、其後新知百石拝領仕、御奉公相勤申候、病氣故隱居致、拙者ニ家督無相違被下置、与板組江召加、只今御奉公申上候、以上

額田角兵衛由緒

一、弁財天と申者拙者之ためには再伯父ニ御座候、御当方江参、五百石被下置、御奉公仕候、生国は紀州之者ニ御座候、親角兵衛義、弁才天跡をしたひ御当地江参、五拾石拝領仕、江戸石垣御普請奉行被仰付、相勤申候、後ニ死去仕、家督無相違拙者ニ被仰付候、

一、綱勝様御代ニ鍛冶橋之奥様江御守ニ被
仰付候、百五拾石御加増被下
置罷登刻、佐々木野ニ而落馬仕ニ付而罷帰、御役御赦免百五拾石被召上、
五拾石ニ而只今御奉公申上候、以上

立岩藤左衛門由緒

一、立岩勘解由左衛門、信州葛山之内立岩ニ罷在候、信玄公御旗本ニ而知行
三百貫文、元龜元年ニ被下置、御判形于今所持仕候、景勝様より天正
十年ニ本領并吉村と申所被下置候御判形所持仕候、勘解由左衛門
名を替申ニ付而、御判形ニは伊豆と被成被下置候 ▲伊豆死去仕、実子
喜兵衛跡式被 仰付、芦野五郎左衛門御手ニ入時分、御使喜兵衛ニ被
仰付、其後庄内二郡之内一郡諸事仕置等可仕之旨、山城守御判

形所持仕候、喜兵衛存生之時分、惣領ニ候得共、善左衛門義上野新三郎
名跡ニ仕候、喜兵衛病死仕、次男舎人家督被仰付、与板組江被

召加候、其後御馬乗ニ被仰付候、舎人死去仕、実子小右衛門ニ跡式
被仰付、与板組ニ御奉公仕、小右衛門病死仕、某家督被仰付、
御奉公申上候、以上

青柳三郎兵衛由緒

一、青柳隼人、与板普代ニ御座候、景勝様与板江被下置御書ニ、青柳事は
家老之輩、直江之家ニ而代々与板之実也ト被記、本書は高梨源五郎
所ニ御座候 ▲会津江御国替已後、福島へ被遣七百石被下置候、小田切
安芸兩人彼地ニ罷有候、其後平林蔵人福島ニ而仕置仕ニ付、隼人ハ

庭坂ニ被差置、同心拾騎足輕三十人預り申罷在候 ▲隼人相果、

嫡子助左衛門貳百石、次男藤左衛門ニ貳百石被下置、藤左衛門義は庭坂ニ而

病死仕候、実子三郎兵衛ニ五拾石被下置候、親三郎兵衛相果、某家督

被 仰付、只今御奉公申上候、以上

板谷源三郎由緒

一、板谷藤九郎、越後之内町田と申所ニ罷在御奉公仕、天文九年ニ信州御

合戦之節手柄仕付而、景重様より御感状一通、景繁様より御書

一通、長教様御書壱通、又三通于今所持仕候、本知三拾貫、其上二拾

貫文之御加増拝領仕、実子修理ニ家督被 仰付、御奉公仕候、修理

死去仕、実子無御座付而、弟弥六左衛門跡式被 仰付、越後より会津

米沢迄御供仕、御当地ニ而知行百石被下置、大坂兩御陣御供仕候、

其後弥六左衛門実子無御座付而、御馬廻之内八町清兵衛次男掃部

名跡ニ仕候、掃部義も大坂御陣ニ罷立候、弥六左衛門相果、家督掃部ニ

被 仰付候、其已後掃部義も実子無御座付而、計見五助子六左衛門ニ

無相違家督被 仰付候、六左衛門病死仕、実子拙者ニ跡式被 仰付、

御奉公申上候 ▲家康様御書一通、▲謙信様御書壹通、

▲景勝様御書三通、▲景勝様御朱印拾四通、

此御書御朱印は五拾騎之内佐藤平左衛門所持仕候、御尋ニ御座候は、

右之御書御朱印、平左衛門差上可申由ニ御座候、以上

一、曾祖父鑪孫左衛門、信州葛山ニ罷在候、元龜元年ニ信玄公より御朱印之趣、鑪之内百五拾貫、上松之内百貫被下、御朱印于今所持仕候、天正十年ニ景勝様より本領無相違被下置御朱印御座候、御国替已後、御当地ニ而御知行三百石被下置、春日右衛門判形御座候、孫左衛門隱居仕、実子久右衛門家督貳百石被 仰付、大坂御陣之御供仕候、其後御扶持方組御預相勤申候、其已後御勘氣被 仰付、御赦免之時分百石被下置候、御金山奉行被 仰付、御加増拝領貳百石ニ被 仰付、後隱居仕、親与五兵衛ニ家督被 仰付、御当代ニ御金山奉行被 仰付相勤申、病死仕候、某家督被 仰付、只今御奉公申上候、以上

椎野弥七由緒

一、綱勝様御代、親椎野九右衛門隱居仕節、兄清右衛門ニ家督百石被

仰付、拙者ニ五拾石被下置候、兩人ニ知方被下置義、先祖御忠進申

由被聞召上、右之通被 仰付候、先祖之義、同苗九右衛門委細申上候

通ニ御座候、以上

諸橋弥兵衛由緒

一、祖父諸橋大炊之助、越後より小国但馬ニ付添会津江参、仙道内玉井

と申所ニ罷在候、其後米沢へ御越之時分、小国但馬名字御立不被成候

付而、直江山城守、但馬手明足輕大炊助ニ御預被成、其已後山城守

知行百石被下置、高畠へ被遣候、佐田舍人御城代之時迄、右之手明

足輕引廻申候、親忠右衛門義は別而御扶持被下置、大坂御陣ニ罷立候、大炊助相果、忠右衛門ニ跡式百石被 仰付候、忠右衛門死去仕、拙者家督被 仰付、只今御奉公申上候、以上

山岸市左衛門由緒

一、山岸清左衛門、越中之者ニ御座候、直江山城守御扶持被下、組外ニ而御奉公仕候、後 定勝様御代ニ新知百石被下置、江戸御作事屋頭ニ被 仰付定詰仕候、親兵右衛門義は 隠芝様御小姓ニ被召仕、御奉公申上処ニ祖父清左衛門死去仕付而、家督無相違親兵右衛門ニ被 仰付、与板組江被召加、御奉公仕候、死去仕、跡式拙者被 仰付、只今御奉公申上候、以上

粕屋犬千代子孫儀右衛門、天保年中、壹番組
寺沢与惣次平米御蔵にせ預り一件二付、改易
被仰付、其後御徒組江被入召候

齋藤又左衛門由緒

一、祖父齋藤掃部、越後之内雁羽郡赤田ニ罷在候、高麗御陣之御供

仕候、其後会津御国替時分、御当地江御移之後、信夫之内大森ニ被

差置候、其節仙台より福嶋江ニ戦之時分、祖父掃部福嶋江有、詰

御奉公申上候、其已後病死仕、跡式父惣兵衛ニ百拾七石被下置、

大坂御陣最上御勢ニ被遣罷立候、惣兵衛隠居仕、家督拙者ニ無

相違被 仰付、只今御奉公申上候、以上

池浦庄左衛門由緒

一、曾祖父庄左衛門、山城守普代ニ御座候、御勘定役仕病死仕、以後祖父

庄左衛門家督被 仰付、如右之御勘定役被 仰付、病死仕、親惣左衛門

家督仕、五拾石ニ被仰 付候、後御武具御蔵役仕、致隠居、某ニ跡式

無相違被 仰付候、御奉公申上候、以上

粕谷犬千代由緒

一、先祖粕谷喜右衛門、山城守普代ニ御座候、越後御当地迄御供仕

罷越候、粕谷喜右衛門、越後ニ而御奉公之所慥承伝不申候、御当国ニ而

百五拾石被下置、ニ之御丸御納戸頭被 仰付、相勤申候、喜右衛門病

死仕、実子喜八ニ跡式被仰付候、喜八後ニ喜右衛門ニ罷成候、喜右衛門病

死仕、実子左太夫ニ家督百石被 仰付候、右之御役仕候、左太夫

実子無御座付而、先寺嶋喜左衛門末子右馬之助、左太夫跡式無相違

被 仰付、与板組江被召加候、 綱勝様御代ニ御近習仕候、隠居仕、寺嶋

喜左衛門末子拙者跡式被 仰付候、以上

岡長兵衛由緒

一、志田修理御郡代之時分、親茂左衛門同心御奉公仕、来次左近御

郡代節、開所之内五拾石被下置、与板組江被召加候、茂左衛門隱居仕付而、跡式無相違某二被 仰付、只今御奉公申上候、以上

鈴木理左衛門由緒

一、拙者曾祖父助左衛門儀は仙道之者二御座候、助左衛門病死仕、跡式

惣領鈴木清兵衛五拾石、次男五郎右衛門二五拾石被下置候、清兵衛義、

江戸御堀御普請奉行被 仰付、罷登申候、江戸二而病死仕、実子

無御座付而、孫二御座候舟田善左衛門子牛之助二跡式被下置、牛之助無程

病死仕付而、牛之助姉ニ上倉七兵衛三男聲名跡ニ被 仰付、只今拙者
御奉公申上候、以上

唐沢次郎作由緒

一、曾祖父唐沢十左衛門義、越後笹岡ニ被指置候、新発田御陣之時分走廻
申付而、景勝様より御感状被下置、于今所持仕候、籠城五年目ニ討死
仕候、其砌知行式百貫被下置由申伝候、十左衛門実子大膳ニ家督被
仰付、同前ニ被差置候、籠城七年之内高名仕付而、景勝様より御
感状ニ通被下置候、于今所持仕候、并高麗御陣迄御供相勤、米沢ニ而
知行式百石被下置候、右之大膳死去以後、実子十左衛門ニ跡式被
仰付、御奉公相勤申候、大膳死去仕時分、知行被召上、十左衛門ニ御扶持

被下置、其已後隱居仕、実子六右衛門ニ跡式被 仰付、候後六右衛門儀、

浜御役被 仰付、御奉公申上死去仕、跡式拙者ニ被 仰付候、以上

小幡左内由緒

一、拙者小幡弥五右衛門次男ニ御座候、 綱勝様御代ニ御近習ニ被召遣、

其已後与板組江被 仰付、御扶持御切米拝領仕候、先祖品々同苗

弥左衛門申上候通ニ御座候、以上

須崎甚兵衛由緒

一、綱勝様御代、御中之間之御奉公仕、其後中小姓之御奉公相勤申候、

先祖之義は同苗勘七申上候通ニ御座候、以上

石井次郎右衛門由緒

一、祖父石井大学、越後与板御普代ニ御座候、此方迄御供仕罷越、百

五拾石被下置候、最上御陣之時分、町出人を五拾人御預ケ罷越相勤

申候、兄仁兵衛ニ大学跡式被 仰付候、次男次郎右衛門義は別而御扶持

被下置、御歩行之御奉公仕、其已後 綱勝様御代ニ与板組江被召加、

御奉公相勤、死去仕、已後実子拙者ニ跡式被 仰付候、只今御奉公

申上候、以上

仁科名兵衛由緒

一、曾祖父仁科伊豆、信濃ニ罷在候、其後越後江罷越、父子共ニ御

奉公仕候、其後三上ニ罷有候時分、仁科伯耆ニ罷成、大川太夫と

縁辺仕、男子壺人持申、伯耆死去仕、其後会津御国替時分、親

仁科清藏若輩故御供不仕、其已後母共ニ此御地江罷成候処、山城守

被聞召上、御扶持御切米被下置候、組外ニ被召仕候、拙者義、母 徳松様江

御乳人ニ被召仕申ニ付而、先祖被聞召上、御扶持御切米被下置、与板

組江被召加、只今御奉公申上候、以上

高梨彦三郎由緒

一、綱勝様御代ニ御扶持拝領仕、与板組江被召加、只今御奉公

申上候、先祖之義先祖之義同苗源五郎申上通ニ御座候、以上

相浦次郎助由緒

一、相浦源右衛門次男茂左衛門、拙者親ニ御座候、綱勝様御代ニ新御

扶持御切米被下置、御鳥打役仕、与板組ニ被召加、御奉公相勤、病

死仕、已後実子拙者跡式無相違被 仰付候、先祖之義は同苗

源次郎可申上候、以上

中沢権兵衛由緒

一、祖父中沢八郎左衛門、知行百石被下置、山城守用所相達、其後病死

仕候、親権兵衛若輩故知行被召上、御扶持御切米被下置、御歩行

御奉公申上候 ▲綱勝様御代、与板組江被召加、御奉公相勤、其已後

病死仕、拙者跡式無相違被下置、只今御奉公仕候、以上

梅沢源左衛門由緒

一、定勝様御代二拙者義五人扶持二拾石被下置、御下乗仕、御奉公申上候、

年寄申二付而役義御赦免被遊、只今与板組江被召加、御奉公申上候、先

祖之義は梅沢与五左衛門書上申通ニ御座候、以上

行方市郎左衛門由緒

一、御当代ニ御扶持御切米被下置、与板組江被召加、只今御奉公相勤申候、先祖之義は不存候、以上

池田甚右衛門由緒

一、曾祖父、越後ニ而直江大和入道普代ニ御座候、椿山ニ而御知行被下

置、直江山城代迄奉公仕候、米沢江御国替之砌、李山村御知行式百石

被下置、御納戸頭被 仰付、病死仕候、実子惣蔵、若年より越後ニ而直江

大後室養子と名付近習ニ被召仕候故、家督無相違被下置候、惣蔵

義、後甚右衛門ニ罷成候、御納戸頭仕、御奉公相勤申候

一、定勝様御代ニ山城後室米沢江罷越候節、右之様子故甚右衛門所ニ

久々御座候而御登候、志田修理郡代時分、甚右衛門義御勘氣仕致病仕候、

一、綱勝様御代ニ実子惣三郎被召出、御知行百石被下置、御奉公申上候、後

御加増百石被下置、甚右衛門ニ罷成、御奉公仕病死致候、家督拙者ニ被

仰付、延宝四年ニ江戸御米蔵頭ニ被 仰付、御奉公申上候、以上

登坂九門由緒

一、曾祖父登坂惣助、五十騎並之御奉公仕、越後新発田御陣之節、

廿七才ニ而討死仕由申伝候、実子無御座付而、弟与右衛門ニ跡式被 仰

付候、与右衛門子四郎右衛門、直江山城守ニ奉公仕候处ニ、別而知行三百石

被下置、江戸詰仕御用相達申候、与右衛門跡式ニは四郎右衛門実子

清右衛門被 仰付、五十騎ニ而御奉公仕候、四郎右衛門義は与板組江被仰付、御奉公仕候、四郎右衛門男子無御座候付而、山崎藤右衛門子九門翯名跡二仕、四郎右衛門跡式貳百石被下置候、親九門病死致、拙者二跡式被仰付、只今御奉公申上候、以上、

梅沢仙右衛門由緒

一、梅沢惣助、越後与板組之御普代ニ御座候、拙者祖父立岩浄林

三男名兵衛嫡子御座候処ニ、同苗与五右衛門御扶持御切米、某拝領仕、

御扶持方組江被召加候、其已後与板組江被仰付、後江戸定詰被

仰付、新知五拾石被下置、只今御奉公相勤申候、先祖之義は梅沢

与五左衛門可申上候、以上

大比良次兵衛由緒

一、先祖越後上田之生ニ御座候、祖父大比良彦右衛門、泉沢河内一類故

同心ニ被 仰付、知行三百石河内所より出し被申候、河内不仕合已後彦右衛門

年寄隱居仕候、実子左門、直江山城御扶持御切米被下置、致御奉公候

一、定勝様御代、親左門越後江国御横目ニ被遣、首尾好相勤罷帰申ニ

付而、知行五拾石被下置、与板組ニ被召加、御奉公申上候、拙者義は御歩行

御奉公仕候処、御横目被 仰付御奉公申上候、親左門病死仕、跡式実

子拙者ニ無相違被 仰付候、無程御作事屋頭被 仰付、相勤申内ニ、

江戸御台所頭被 仰付、御加増被下置、只今御奉公申上候、以上

東九郎右衛門由緒

岩瀬小右衛門子孫半兵衛、正徳元年六月十四日、

御右筆被 仰付、享保十四年不調法有之、閏九月

廿七日改易被 仰付、其後御扶持 二而被召出、

其後御知行置被仰付候

一、会津御持之時分、某親東清左衛門、同子助作御奉公仕候、無程此御地江

御越被遊候付而、御暇被下候、某兄助作義は御当地江參、御奉公仕、御知行

百石被下置候、拙者義は若輩ニおくれ申、先祖不存候、拙者義無

足ニ御座候付而窄人仕、其已後帰參仕所ニ、御扶持被下置御奉公申上候、

其後 綱勝様御代ニ国御横目被 仰付、相勤申候、御当代ニ江

戸御納戸頭被 仰付、御知行五十石致拝領、只今御奉公申上候、以上

岩瀬小右衛門由緒

一、先祖之義、奥州岩瀬之郡須賀川ニ居城之時分、所持致候証文共

焼失、氏政氏康墨付式通御座候、兄弟二人窄人仕、天正七年ニ

米沢江罷越、伊達陸奥守奉公仕、三十五貫二百文知方給候証

文、于今所持仕候、同天正年中、陸奥守殿所替ニ付而、祖父牢人ニ而

添川ニ罷在所ニ、泉沢本庄与次郎御介抱ニ而、其後御当家様江

親次郎兵衛御奉公申上候、拙者義は五十石被下置、只今御奉公申

上候、先祖次男三河之堀川江参罷在所ニ、家康公御入郡之

時分御供仕、今程同名簾本ニ御奉公致罷在候、以上

一、

須藤七右衛門由緒

一、養父須藤門之丞義、関東長尾平太代々家来ニ御座候、

謙信様関東江御発向之時分、御手ニ付、越後江罷越候、其節門之丞義は

平太ニ付罷越候、新発田御陣之時分、敵を討取申付而、

景勝様より御感状被下置由申伝候、長手村ニ罷在候時分、証文

火失仕候 ▲平太討死仕、已後家来六人直江山城守ニ御預ケ、長

井領ニ而門之丞百石被下置候、米沢江御移之節、御知行被召上、

御扶持被下置、則御扶持組ニ而御奉公仕候、拙者之義は梅沢名

字ニ而御奉公仕候処ニ、門之丞聲名跡ニ罷成、御奉公相勤申候、近年

江戸浜御屋敷之将ニ被 仰付、御知行五十石被下置、与板組江被

召加、御奉公申上候、以上

岩崎孫左衛門由緒

一、祖父岩崎左馬之助、本国関東佐野宗綱ニ奉公仕、宗綱逝

去之後、越後江罕人仕、山城守江奉公仕候、会津江御国替之

時分御供仕、最上御陣之砌、南之山江關東勢之押ニ天国但馬被遣、若輩ニ

御座候故、左馬之助被差添候、御当地江御打入之後、貳百石御加増拝領

五百石ニ罷成、信夫飯坂江被遣、御足輕支配仕罷在候、其後五百石御加増

仕千石ニ罷成、高畠御城代被差置候、右兩度之御加増証文ニ通所持仕候

一、右嫡子孫次郎、各別ニ貳百石被下置御奉公仕、最上御陣大坂兩度之

御陣ニ御手明衆預り罷立候、其已後御足輕鎧組五拾人御預ケ被成、

御加増百石拝領三百石罷成、已後三十人頭被 仰付、御奉公仕候、

祖父死去以後、左馬之助ニ罷成御奉公仕、病死仕候

一、定勝様御幼少より拙者御奉公仕、亥之年之御上洛御供仕、左馬之助

跡式五拾石被下置、其後御加増拝領貳百石ニ罷成候、 綱勝様御代ニ

御足輕鎧組五拾人御預ケ、御加増百石拝領三百石ニ罷成、其後三十人頭被 仰付、六拾年余御奉公仕候、以上

石原金兵衛由緒

一、祖父石原市兵衛、本国佐渡之者ニ御座候、御当地へ罷越、直江山城守江御扶持方並之御奉公仕、大坂両御陣ニも罷立申候

一、親石原平内、直江山城守江中小姓ニ被召遣、其已後 定勝様江

御步行御奉公申上、已後御中之間江被召加、新御知行百石拝領

仕、其後廿人御使番被成立候砌、御加増弍百石被下置、三百石ニ而

御使役仕、 綱勝様御代迄右之身立ニ而御奉公申上、病氣

故隠居仕候 ▲定勝様御代、私十六才より御小姓御奉公申上、御遠行

以後、綱勝様江大小姓並之御奉公仕、親隱居仕、家督貳百石被仰付、与板組江被召加、御奉公相勤、其後御右筆ニ被召仕、拾二、三ヶ年御奉公仕候、以後御使役被仰付、御加増百石拝領三百石ニ罷成、御当代ニ御足輕御鉄炮組五拾人御預ケ御奉公仕候、以上

中沢新左衛門由緒

一、祖父中沢平助、信州より御当地迄御供仕罷越、御知行百五拾石被下置、御奉公申上、年寄申隱居仕候 ▲親中沢勘左衛門ニ右平助家督無相違百五拾石被下置、其後御加増五拾石拝領仕、貳百石ニ罷成御奉公申上、以後築川江被遣、年寄申隱居仕候 ▲右親勘左衛門

隱居仕、家督無相違式百石某ニ被下置、其後御足輕御鑓組五拾人

御預ケ被成、御加増百石拝領三百石ニ罷成、当年迄三拾弍年御奉公

申上候、以上

吉池五右衛門由緒

一、祖父吉池五右衛門、御知行式百石被下置、御奉公仕候、江戸在番中

死去仕候、跡式之義、嫡子吉池新右衛門二百石、次男七兵衛二百石被下

置、御奉公仕候、親七兵衛年寄申隠居仕候、某ニ家督無相違被

仰付、百石被下置御奉公仕候、其後 綱勝様御代ニ御金山奉行

被 仰付、御加増百石拝領仕式百石ニ罷成、只今十人頭並ニ而御奉公

仕候、先祖之義、吉池新右衛門委可申上候、以上

五十嵐弥左衛門由緒

一、祖父五十嵐弥次右衛門、仙台政宗江奉公仕、其已後窄人仕、御当

地江罷越候、最上御陣之砌、直江山城殿江被召出、本庄主馬ニ被差

添、騎馬ニ而罷立陣中相勤、御帰陣被遊、御知行貳百石被下置

一、慶長拾五年ニ御足輕三十人御預ケ被成候、大坂御陣之砌、右之組召連

罷立候、其刻親左馬之助も罷立候 ▲景勝様御代、御上洛御供、

祖父名代ニ左馬之助被 仰付罷立候、其砌福嶋太夫殿御改易ニ付、

家中之様体見届申様被 仰付、安芸之広嶋江被遣、万斎織部卜

申者召連参、委細承届罷帰、様子具ニ 言上仕候

一、元和九年ニ祖父死去仕、跡式親左馬之助ニ貳百石被下置、右組共ニ

無相違被 仰付、其後五拾人組ニ罷成、三百石之者ニ御預ケ被成候付而、
組被召上、拾ケ年平ニ罷在候処ニ、寛永拾三年ニ御扶持方組御預ケ、
其後御加増拝領仕、三百石ニ罷成申候 ▲綱勝様御代ニ三十人頭

被 仰付、其後官途仕、徳左衛門ニ罷成申候、御入国被遊如毎度五組ニ
罷成申ニ付、組無御座所ニ、已後御扶持方組御預ケ被成、年寄申隠
居仕、家督拙者ニ被 仰付、只今十人頭並ニ而御奉公申上候、以上、

横田弥五左衛門由緒

一、祖父横田右京、生国会津中池之者ニ御座候、則在名中治と

名乗申所ニ、横田終安養子ニ罷成、直江山城殿より新知二百石被
下、大坂両御陣御供仕候、後御手明十人預り申候

一、定勝様御代、御使番被 仰付、御加増百石被下置、三百石ニ罷成、

其後御足輕御鉄炮組五拾人御預ケ被成候 ▲綱勝様御代二三

十人頭被 仰付、無程荒戸御城代ニ被遣、久々罷在、老後故

隠居仕候、私義青柳三郎兵衛子ニ御座候、右京孫ニ御座候、右京

実子無御座付而、拙者名跡ニ仕、家督百石ニ被 仰付、唯今

十人頭並之御奉公申上候、以上

三段崎善左衛門由緒

一、曾祖父三段崎加右衛門義、本国越前より天正年中ニ葛山江罷越、

御奉公申上候、御知行何程被下置も委細承伝不申候、其後於

米沢御知行三百石被下置、慶長拾年ニ与板之宰配頭被

仰付候、元和五年ニ法体仕道清ニ罷成、御奉公申上、寛永七年ニ

病死仕、跡式道清聳登坂四郎右衛門嫡子彦七郎二百石被下置

処ニ、翌年病死仕候、四郎右衛門娘道清孫聳ニ町田外記次男

専右衛門二百石被下置、家督被 仰付候、綱勝様御代、御加増

百石拝領式百石ニ罷成、御当代御足輕御鉄炮組四拾人御

預ケ被成、御加増百石拝領仕、御奉公申上候、延宝三年ニ病死仕候、

跡式某ニ被 仰付、御奉公申上候、先祖名字朝倉之由緒

別紙ニ可申上候、以上、

上野伊右衛門由緒

一、曾祖父上野新三郎、信州葛山之内上野ニ罷在候、信州御手ニ

入申砌、景勝様より本領被下置御判形拝領、于今所持仕候

一、新三郎男子無御座故、立岩喜兵衛嫡子善左衛門聶二仕、跡式二百

石二被仰付、最上御陣ニ山城殿御供仕罷帰、已後御手明十人御預ケ被成、

其後大坂両御陣ニ罷立申候、定勝様御代ニ三拾人頭被仰付、御

加増百石拝領三百石ニ罷成候、其已後荒戸御城代ニ被仰付候、親三郎右衛門

義は定勝様江御小姓奉公仕、善左衛門死去仕、二百石ニ家督被

仰付、与板組ニ而御奉公仕、無程御使番被仰付、百石御加増拝領三

百石ニ罷成、其已後三十人頭ニ被仰付、死去致、某ニ家督被仰付、御奉

公仕候、以上、

大熊弥次兵衛由緒

一、先祖関東之内真壁大熊ニ罷在候、曾祖父大熊左門は会津蒲生

飛騨守ニ而知行千石被下置、組御預ケ被召仕候、則蒲生家来町野

左近之助、岡半兵衛兩人奉行ニ付而、知行之判形所持仕候

一、祖父大熊伝兵衛ニ直江山城守殿より知行百石被下、近習ニ被召仕、大坂

両御陣共ニ御供仕、其後稻留流鉄炮稽古被 仰付在京仕、稻

留一流相極罷下、御加増百石被下置、貳百石ニ罷成候

一、定勝様御代、御足輕御鉄炮組御預ケ被成、御加増百石拝領三百石ニ

罷成、以後御家中惣御鉄炮支配被 仰付、大筒組御預ケ被成、

定勝様御鉄炮之御師匠仕候、其後御加増被下置、四百石ニ罷成申候、

伝兵衛男子無御座付、河田九郎左衛門次男采女聲名跡ニ仕候、

綱勝様御代、伝兵衛跡式采女ニ三百石被下置、右之御役義組共ニ

被 仰付、遺官之伝兵衛ニ罷成候、親伝兵衛病氣故隠居仕、家

督拙者ニ被 仰付、御奉公申上候、以上

清水新兵衛由緒

一、曾祖父清水三川、信州塩崎より慶長三年当国中山江参申候、

其已後病死仕候 ▲祖父清水喜兵衛三河次男ニ御座候、下長井

之内歌丸村江引越、開之地百五拾石被下置、御奉公申上候、已後死去

仕候、実子藤吉ニ家督無相違百五拾石被下置、其以後死去仕候、実子無

御座付而、拙者親五十嵐佐左衛門と申候、藤吉妹贅ニ御座候付、名跡ニ

申立候处、跡式無相違被 仰付、清水喜兵衛ニ罷成候、 定勝様御

代ニ御加増拝領仕、貳百石ニ罷成、御奉公相勤、死去仕候、家督無相違実

子拙者ニ被 仰付、御奉公申上候、先祖之義、清水源左衛門委可申上候、以上

永井金左衛門由緒

一、祖父長井庄左衛門、信州より若松江御供仕、米沢江参、御知行百石拝領仕、

惣領半左衛門別而御知行被下置、福嶋江被遣候、親金左衛門義、直江山城守

殿御步行御奉公被 仰付、定勝様三拾人之御歩行之内被 仰

付、両御上洛ニ御供相勤、其後御知行六拾石拝領、与板組江被召加候

一、某儀、大御姫様御へや之時分、中小姓ニ被召仕所ニ、以来親名跡ニ

罷成者候由、御意被成、御暇被下置、江戸より罷下候、親死去仕、跡式被

仰付、六拾石被下置、御奉公相勤申処ニ、綱勝様御代、御加増拝領
二百石ニ罷成候、御奉公仕、御当代ニ宇治御茶詰役被 仰付、于今
相勤申候、以上、

鳥山五左衛門由緒

一、鳥山因幡、越後御普代ニ御座候、拙者より五代以前之由承及候、嫡子鳥山
修理、輝虎様江御奉公仕候、景勝様会津江御国替之砌、御
供仕、其後御当地ニ而山城守より知行百石被下、御奉公仕候、修理次男
監物御扶持被下、大坂両御陣相勤申、以後 定勝様御代ニ御中
之間御奉公被 仰付、以後新御知行百石被下置、其後御加増百石
拝領、貳百石ニ罷成、年寄隱居仕、嫡子主膳ニ家督無相違被 仰

付、御中之間御奉公仕候、以後病死仕候、実子某ニ家督被 仰付、

右之御奉公申上候、 御当代ニ与板組江被召加、御奉公申上候、以上、

門屋善左衛門由緒

一、親門屋豊前、松平下野普代ニ御座候、宰相殿死去被致跡絶申

故、会津より御当地江罷越、二兩年牢人ニ而罷在候处、志田修理を頼、先祖

之義申上候得は、為堪忍分五人扶持被下置、下美作次江出仕申様ニ被

仰出、上意之通ニ相勤申候、父豊前死去仕、嫡子加内之助ニ跡式無相

違被仰付候 ▲寛永拾年より拙者義は御小姓奉公仕、其後大小姓ニ

被召加、 綱勝様御代ニ新御知行百石拝領仕、以後与板組江被召

加、御奉公申上候、以上

上甚兵衛由緒

一、定勝様御代、親上友之助御近習之御奉公申上、御知行百石拝領

仕、与板組江被召加候、無程死去仕、某二家督被 仰付、百石被下置、御奉公仕候、先祖之義は上与惣兵衛委細可申上候、以上

小田切長左衛門由緒

一、親小田切織部、越後御普代之者ニ御座候得共、祖父御勘気ニ付最

上江罕人仕候、拙者父庶子ニ御座候間、於最上木崎権左衛門と申者之

名跡ニ罷成候処ニ、最上没落之砌、御譜代をしたひ申、御当国江罷

越、郡代付之御扶持拝領仕、数年御奉公仕候、其後与板組江被召加、

御奉公申上、病死仕候 ▲拙者小田切を名乗申義、親本名ニ御座候間、

定勝様御代ニ小田切ニ罷成、御奉公仕、綱勝様御代ニ御知行

八拾石拝領仕、与板組江被召加、百石之御軍役仕候、先祖之儀

委承伝不申候、已上

吉田孫右衛門由緒

一、親道与、本国近江棹山伊井侍従普代ニ御座候、若輩之砌、江

戸江罕人仕、関可春所ニ而茶之湯稽古仕罷在候、其後御当地江

参、定勝様江罷出候義、岩井長四郎取次を以、右之家職ニ而御

奉公被 仰付、御知行百石ニ五人扶持被下置、御奉公申上候、已後

道与義、吉田市右衛門養子ニ罷成、吉田を名乗申候、其御御加増百

石拝領仕、貳百石ニ罷成候、綱勝様御代ニ御茶詰役被 仰付相

勤申、年寄隱居仕候、家督拙者ニ被 仰付、与板組江被召加、御奉
公申上候、以上

高森縫殿之助由緒

一、先祖、越後三東郡之内高森ニ居館御座候ニ罷在、則在名ニ御座候

一、祖父高森中務、於与板直江一家之侍ニ而昼夜之働申ニ付而、從

景勝様代々武辺之者共被御感、御書被下置候、于今高梨源五郎

所ニ御座候 ▲高森中務、越中御出馬之砌、御陣之前後をあら

そひ閉門ニ被 仰付ニ付而、御国替之節、越後本領ニ罷在、病死仕候、

嫡子孫左衛門米沢江罷越、直江山城殿を頼申所ニ 知行六拾石被下、

与板組ニ而大坂兩御陣相勤申候、 定勝様御代、孫左衛門跡式無相違

実子拙者ニ被 仰付、当年迄五拾四年御奉公申上候、已上

大橋左太夫由緒

一、曾祖父大橋若狭義、本国信州之者ニ御座候、祖父大橋帶刀儀、

若狭庶子ニ付、御国替之前致牢人、庄内ニ罷在候、其已後米沢江

罷越、直江山城殿江被召出、其身馬鍛練之由ニ而当分御頼被成、慶長

七年ニ御厩頭被 仰付、御知行百石被下置、御奉公申上候、其後御

訴訟申役義差上、平ニ而御奉公申罷在候 ▲親四郎右衛門義、直江平八江

若年より小姓奉公仕罷在候、大坂御陣之砌、平八供致罷立候、其後

平八死去ニ付而、定勝様江御歩行之御奉公仕、両御上洛之御供

仕候、御帰国之後、別而御知行五十石被下置、御馬乗ニ被 仰付、無程

病氣故、右之役義御訴訟申上処ニ、与板組江被召加、御奉公仕候

一、綱勝様御代ニ祖父帶刀隱居仕、親四郎右衛門ニ家督百石被下置、

百五拾石ニ罷成御奉公仕、病死仕、拙者ニ跡式被 仰付、御奉公仕候、先

祖之義は惣領大橋伝右衛門可申上候、以上

岩田加兵衛由緒

一、祖父岩田加兵衛、大国但馬ニ付添、越後卷と申所ニ居申候、会津江

御供仕、最上御陣江罷立申候、其後御当地江御移之時分、百石ニ而

御供仕、高畠ニ被指置候 ▲慶長拾三年ニ新宿御番所江欠落者

取込働申ニ付而、打留申候、直江山城守手柄仕由ニ而刀被下、于今

書付所持仕候、 定勝様御代ニ御加増百石被下置、貳百石ニ而

御奉公申上候、大坂御陣ニ親主殿罷登候、祖父加兵衛年寄隠居

仕候、家督親主殿ニ被 仰付候、 綱勝様御代、二之御丸様御

守ニ被 仰付、御加増五拾石被下置、百石ニ罷成、名を改加兵衛ニ罷成、

御奉公申上、御当代ニ隠居仕、家督拙者ニ被 仰付、御奉公申

上候、以上

鳥羽半兵衛由緒

一、曾祖父鳥羽備前、越後御普代ニ御座候、 景勝様江御奉公申

上、御知行被下置候処、御勘氣を蒙り、然共会津御当地迄罷越

申所ニ、備前聳寺尾源藏と申者乱氣仕、備前を害、其上居家ニ火を掛、

切腹仕候、備前子拾右衛門、若輩より山城殿江被召仕、御納戸役

被 仰付、其已後御扶持方並ニ而御足輕十人御預ケ、大坂御陣御供仕候

一、生善院様、京都より御下之砌、御足輕召連御迎ニ罷登、御供仕罷下候、

定勝様御代ニ先祖被聞召上、五拾石被下置、 生善院様江御

奉公仕候、江戸江御登之砌、十右衛門年寄申故、御供御赦免被遊、与

板組江被召加、其後死去仕候、親十右衛門ニ跡式被 仰付、御奉公申

上、年寄隱居仕、拙者ニ家督無相違被 仰付、御奉公申上候、以上

長井武右衛門由緒

一、曾祖父長井庄左衛門、信州より会津江御供仕罷越申候、祖父藤十郎、

次男故山城殿より御蔵出之知行五拾石被下置、御奉公仕申候、最上

御陣ニ馬上ニ而罷立、其後会津より御当国江御移之砌、右之五拾石被

召上、御扶持ニ而御奉公仕、其後武右衛門ニ罷成、大坂両御陣ニ罷立相勤
申候、定勝様御代、御知行五拾石拝領仕、御作事頭被

仰付、其已後御加増被下置百石ニ罷成、夜盜組被 仰付候、其後

武右衛門死去仕、実子無御座付而、拙者親武右衛門、遠藤平右衛門

次男ニ御座候、賀名跡ニ罷成、家督被 仰付候、其後隱居仕、

実子某ニ家督被 仰付、御奉公仕候、已上

近藤安兵衛由緒

一、曾祖父近藤又兵衛、本国近江之者ニ御座候、会津江罷越罷在

申所ニ、会津より御当地迄罷越、御知行百石拝領仕、与板組江被召加候、

其後江戸石垣御普請奉行被 仰付、相勤申候、其後年寄申ニ

付、居役ニ被 仰付候、以後病死仕候、嫡子市左衛門ニ家督無相違被
仰付、御奉公仕、死去致候、嫡子伝左衛門ニ跡式被 仰付、御奉公
申上候処、病人ニ罷成、寛文十一年ニ隱居仕候、男子無御座候付而、
遠藤間兵衛嫡子某聲名跡ニ家督被 仰付、御奉公申上候、

以上

石原吉右衛門由緒

一、曾祖父石原兵部、佐渡より会津御当地迄御供仕参申候、御当地ニ而
御知行五拾石被下、信夫之内庭坂ニ被差置、与板組之御奉公申上候、
無程兵部病死仕、嫡子惣兵衛ニ跡式無相違被下置、御奉公申上候、
惣兵衛男子無御座ニ付、五拾騎之内小森沢肥前子聲名跡ニ仕、

石原太兵衛ニ罷成、四拾ヶ年以前ニ米沢江罷越、御奉公申上、其後

太兵衛死去仕、実子某ニ跡式被 仰付、御奉公申上候、以上

大河原忠左衛門由緒

一、祖父大河原忠左衛門、貳百石ニ而御代官被仰付相勤申、年寄

隠居仕、嶋田掃部子惣左衛門聲名跡ニ仕、家督無相違被下

置、与板組江被召加、御奉公仕、其後病死仕候、男子無御座付而、

舟田小左衛門次男某聲名跡ニ罷成、跡式被 仰付候、先祖之義、

大河原太郎右衛門委細可申上候、以上

永井源右衛門由緒

一、祖父長井縫殿之助、越後岩船ニ罷在候小国三河守江奉公仕候、

就御錯乱別而無比類稼申たる由ニ而、大友之内小吉之内合

五貫文之处、為加恩被下置候、御書付所持仕候 ▲大国但馬守、会

津江御国替之御供仕、已後御当地江参申、但馬守牢人已後、

直江山城殿より百石被下、高畠ニ差置候、其後縫殿之助死去

仕、実子孫十郎ニ跡式無相違被下置候、 定勝様御代ニ孫十郎

死去仕候处、嫡子源右衛門五拾石、次男弥左衛門ニ五拾石、兄弟ニ跡式被 仰付候、

源右衛門年寄申隠居仕候、家督実子某ニ被 仰付、御奉公申上候、以上

土佐林八兵衛由緒

一、曾祖父土佐林甲斐、越後御普代ニ御座候、年寄隠居仕、実子久兵衛ニ

家督被 仰付、直江平八近習ニ召仕候、以後 定勝様御右筆被

仰付、御知行百石被下置御奉公申上、年寄申ニ付而、御右筆御赦免、

与板組江被召加、其已後隱居仕、実子甚之丞ニ家督無相違被

仰付、御奉公仕、無程病死仕候、実子長次郎ニ跡式被 仰付候、

長次郎死去仕候、実子無御座付而、大沼五郎兵衛嫡子某長次郎

妹贅ニ御座候付而、跡式被下置、御奉公申上候、以上

黒沢助左衛門由緒

一、祖父黒沢清左衛門、政宗ニ奉公仕、仙台江国替供致罷在候、以後

牢人仕、御当地江罷帰申候、▲最上御陣ニ春日右衛門を以、山城殿江被召

九月十五日

出、馬上ニ而供仕、長谷堂ニ而高名ニツ仕、八沼ニ而十月二日ニ祖父討死仕候

一、御帰陣之上、山城殿より春日右衛門を以御尋被成、拙者親清左衛門ニ才之

時、御知行五拾石被下置、其後与板組江被召加、御奉公仕、病死仕候、
某ニ無相違跡式被 仰付、御奉公申上候、以上

小野里勘助由緒

一、曾祖父小野里内記、越後より御当地迄直江山城守供致罷越、李山

田屋御預ケ御用相達候、御扶持被下、御奉公仕、病死仕候、祖父弥右衛門
跡式被 仰付、右之役義相勤申候、其後江戸御作事屋頭被

仰付、御知行百石被下置候、定詰之御奉公仕、年寄隠居仕候

一、親勘兵衛、各ニ御扶持被下置、御奉公仕候、弥右衛門隠居、家督無相違被

下置、与板組江被召加、御奉公相勤、病死仕候、跡式実子某ニ被 仰付、

御奉公申上候、以上

真野次郎左衛門由緒

一、曾祖父真野主水、甲州信玄公江御奉公仕候、勝頼公御代、主水実

子次郎助、御当家様江罷越、須田大炊与力ニ罷出、大坂御陣ニ須田大炊

与力ニ而罷立、高名仕候、其後御知行百石被下置、保原ニ罷在候

一、定勝様御代、寛永六年ニ此方江被召寄、御加増百石拝領式百石ニ

罷成、与板組江被召加、其後病氣故隠居仕、実子武兵衛ニ跡式被

下置候、以後御勘氣を蒙り、其後被召出、御奉公申上、病死仕候、男

子無御座付而、唐国甚五左衛門弟某聲名跡ニ罷成、跡式無相違被

仰付、御奉公申上候、以上

高梨善左衛門由緒

一、私義、高梨外記三男二御座候、定勝様御若年より被召仕、御上洛、

江戸御上下之御供仕、其後旅御作事二被仰付、三拾年余御奉

公仕候、綱勝様御代二与板組江被召加、其後御入部之年より旅御作事江

被相返、江戸御上下御供仕候、御当代二与板組江被相返、御普請割

役仕、六拾年余御奉公申上候、先祖之義は高梨源五郎可申上候、

以上

池上利兵衛由緒

一、曾祖父池上兵部、本国越中森山之者二御座候、越中江御出馬之

砌、御注進申上、越後江御供仕、御右筆被仰付、御知行拝領、御朱印

并山城守判形共二頂戴仕、御奉公申上、高麗御陣之御供仕、高麗二而

籠嶋と申名字、只今与板組ニ無御座候、但し

今は別名カ

相果申候、右之御朱印両通共ニ于今所持仕候 ▲祖父池上小伝次、

右之名跡ニ被 仰付、名改庄兵衛ニ罷成、与板組江被召加、三百石被下

置、大坂御陣之御供仕、其後病死仕候 ▲親池上七郎兵衛、右之庄兵衛

死去仕候時、若輩ニ御座候故、御知行被召上、成人之上返シ、可被下由被

仰付、御賄被下罷在、其後御步行並江被召加、両御上洛之御供仕、其

已後与板組江被召加、御奉公相勤、病死仕候、拙者ニ跡式無相違被

仰付、御奉公申上候、以上

池上小伝次由緒

一、養父池上甚左衛門、富所三郎兵衛郡代之時分、新御扶持被下置、

御役所ニ而被召仕、御当代ニ罷成、中条越前御役所ニ而御用相達、

死去仕候、男子無御座故、大平源五左衛門次男某聲名跡ニ家督被

仰付、与板組江被召加、御奉公申上候、先祖之義、池上利兵衛可申上候、以上

籠嶋伊左衛門由緒

一、先祖籠嶋新助儀、越後御普代ニ御座候、山城殿江御奉公仕、会津迄御

供仕、御当地江参、与板組ニ而御知行三百石被下置候、其已後蒙御勘氣候

一、新助嫡子伝右衛門、新御扶持被下置、御歩行之御奉公仕、其已後御

扶持方組江被召加候、伝右衛門嫡子新右衛門、御扶持被下置、御歩行之御

奉公仕候、已後長松院様江中小姓ニ被召仕、江戸定詰仕、其後

御暇被下置罷下、与板組江被召加候、年寄隱居仕、実子無御座候故、

御扶持方之内堀内次郎兵衛三男某養子ニ罷成、家督被

久保八左衛門子孫民弥、天保年中、

寺沢与惣次平米御蔵預り 一件之節

改易、其後御徒組江被召出候、久保民次

仰付、御奉公申上候、以上

立岩庄右衛門由緒

一、曾祖父立岩彦四郎、信州桂山桜之内知行七拾五貫文、本領

拾二貫文は新知行、就忠節信玄公より被下置候、御判形于今所持

仕候、其後立岩五郎兵衛ニ罷成、会津江御国替之砌、越後より御当地江

罷越、栖嶋村ニ而御知行百石、山城殿より被下、年寄申隠居仕候故、

嫡子久之丞ニ家督無相違被下置、御奉公仕候、其後最上御陣二十九

之年馬上ニ而御供仕候、御帰陣已後、景勝様会津より御打入之節、

何も並ニ御扶持ニ被成、組外江被仰付候、其後組外之触頭被

仰付、已後与板組江被召加、御奉公申上隠居仕、実子権助ニ家

督被 仰付、御奉公仕候處、病人ニ罷成隠居仕候、男子無御座故、
小田切惣左衛門弟某ニ聲名跡ニ家督無相違被 仰付、御奉
公申上候、以上

久保八左衛門由緒

一、先祖久保茂作、信州葛山廿五騎之内ニ御座候、信夫川俣ニ而打
死仕付而、世忤無御座故、拙者祖父久保久内右弟茂作弟ニ御座候
故、跡式被 仰付百石被下置、中山在番仕候、其後右之御知行
世上並ニ被召上、御扶持方ニ罷成、病死仕候、親清左衛門ニ跡式被
仰付、組外御扶持方之触頭仕候、其後与板組江被召加候、以後
隠居仕、実子某ニ家督被 仰付、御奉公申上候、以上、

立岩吉之丞由緒

一、先祖立岩喜兵衛、本国信州葛山之内立岩ニ罷在候、喜兵衛

三男立岩藤五郎義、直江山城殿御步行奉公仕候、定勝様御

代、御馬乗ニ被 仰付相勤候、綱勝様御代ニ駒改役ニ被 仰付、御

奉公仕、御当代ニ隱居仕候、男子無御座付而、近藤吉左衛門次男

某聲名跡ニ罷成、家督被 仰付、与板組江被召加、御奉公申上候、

先祖之義、立岩藤左衛門可申上候、以上

江部名左衛門由緒

一、祖父江部平左衛門、越後御普代ニ御座候、会津江御国替之御供

仕、其後病死仕候、親名左衛門ニ跡式無相違被下置、直江平八步行

組江被召加、其已後与板組江被召加、御奉公仕、致病死候、跡式

無相違某二被 仰付、御奉公申上候、以上

青木金右衛門由緒

一、曾祖父青木庄右衛門義、生国越後之者二御座候、直江平八

被召仕、乱舞之御指南仕候由承伝申候、祖父金右衛門、平林蔵人同心

組二被召仕、其後朝岡助左衛門御郡代組之番頭仕候、 綱勝様

御代二与板組江被召加、御奉公仕、致病死候、拙者之義は右金右衛門

嫡子青木舎人次男二御座候、全右衛門孫二御座候付而、跡式被

仰付、御奉公申上候、先祖之義委承伝不申候、以上、

寺沢五郎兵衛由緒

一、曾祖父寺沢土佐、信州川中嶋葉科之郡舟山之郷寺沢と申

在名ニ御座候、嫡子寺沢又兵衛、川中嶋御陣之後、直江山城殿江

御奉公仕、御知行百石被下、最上御陣ニ馬上ニ而罷立候、米沢江御打

入之已後、御知行被召上、御扶持ニ而御歩行奉公仕、病死致候、嫡子

伊兵衛ニ跡式無相違被下置、御奉公仕、其已後与板組へ被召加、年寄

隠居仕、某ニ家督被 仰付、御奉公仕候、以上

高橋牛之助由緒

一、祖父高橋清左衛門、生国越後ニ御座候、御扶持方ニ而御奉公仕候、親又左衛門、

各別ニ御扶持御切米被下置、御歩行之御奉公数年仕候、以後与板組江被

召加御奉公仕、病死致候、跡式某ニ無相違被 仰付、御奉公申上候、以上

矢木太郎兵衛由緒

一、祖父矢木次右衛門、越後御普代上田蒲加沢之者ニ御座候、輝虎様

御台所ニ御奉公仕候、綱勝様御代迄右之身立ニ而御奉公相勤

申、病死仕候、嫡子次右衛門、定勝様御代ニ新御扶持被下置、

其已後組外ニ被召加、京都江相詰罷下候、已後御奉行御役所ニ而御

奉公相勤、病死仕候、跡式某ニ被仰付、与板組江被召加候、以上

棚橋平右衛門由緒

一、祖父棚橋源右衛門、越後御普代ニ御座候、直江山城殿江御扶持ニ而御奉

公仕候、源右衛門死去仕、実子宇右衛門ニ跡式被仰付、山城死去之後、

後室江奉公仕、後室死去已後、定勝様江御膳部役ニ而御奉公申

上、其後 大御姫様江御付右之役ニ而御奉公仕、病死仕候、跡式

拙者ニ無相違被 仰付、与板組江被召加、御奉公申上候、以上、

桜井半三郎由緒

一、曾祖父桜井主計、信州井之上之者ニ御座候、山城殿江御奉公仕、

御当地ニ而御知行三百石被下置、最上御陣之砌、土橋宮内、桜井主計、

白岩ニ而討死仕候、主計嫡子彦惣義も同御陣とやか森ニ而討死仕候、

彦惣世倅無御座付而、弟次兵衛ニ跡式被下置候、其後御知行御取

上被成様子之義は委不承伝候、親市兵衛、次兵衛次男ニ御座候

一、定勝様御代ニ御扶持ニ而御勘定所江被召加、無程役頭ニ被 仰付、綱勝様

御代ニ新御知行百石被下置、無程御加増拝領仕、二百石ニ而御奉公相勤候

一、御当代ニ御加増百石被下置、式百石ニ被成置、其上年始之御太刀御通之立場、御役馬之次第迄、町奉行之次ニと被仰出候、御勘定頭相勤、病死仕候、跡式式百石某ニ被下置、与板組江被召加候、以上、

安部藤兵衛由緒

一、祖父郷左衛門、信州井上より越後江罷越、景勝様江御目見

仕候節、御知行三百石并御紋之御鞍拝領仕候、御足輕組御預ケ被成、直江山城守ニ御預ケ被差置候、右之御鞍于今所持仕候

一、祖父郷左衛門病死仕候、実子藤兵衛ニ家督被仰付、御知行式百石被下置、御手明拾人御預ケ、其後御足輕三拾人被仰付、大

坂御陣江御供仕候、其已後御扶持方八拾人御預ケ、其以後御足輕組

五拾人鑓組御預ケ、御加増百石被下置、三百石ニ罷成、三拾人頭被

仰付、御奉公相勤候 ▲定勝様御代ニ拙者拾三より御近習仕、廿七之

年迄御奉公仕候、其已後大小姓二三年被召遣候、親病死仕、拙者二跡

式被 仰付、百石被下置候、与板組江被召加候、 綱勝様御代二百

石之御加増被下置、貳百石ニ罷成、御当代ニ御足輕御鉄炮組四拾人

被仰付、其已後三十人頭被 仰付、御奉公仕候、以上

丸田九左衛門由緒

一、先祖丸田勘解由、信州丸田在名ニ御座候、親九左衛門若キ時分

牢人仕、所々ニ而鉄炮稽古仕罷帰申、三百五拾石ニ廿人扶持被下

置、勘解由名跡ニ罷成候、右は御馬廻ニ御座候、本名之義は駒沢ニ御座候、

惣御鉄炮仕配被 仰付、直江山城守ニ御預ケ被成候、 定勝様御代ニ

御足輕鉄炮組五拾人被 仰付、其已後病死仕候、親九左衛門次男

某、 綱勝様御代ニ御扶持御切米被下置、其已後新知百石被下置、

御当代ニ大筒組五拾人御預ケ、御加増拝領仕、惣御鉄炮之仕配仕、

御奉公申上候、以上

村越四郎左衛門由緒

一、曾祖父村越藤左衛門、武田信玄公御簀本ニ御奉公仕候、祖父村越

志摩、馬場美濃守、信玄公御先手ニ御座候、軍法見習申為若年より

付添、与力分ニ而奉公仕候、高名之場数、 定勝様御代、書付差上

申、留書同姓藤左衛門所より書上可申候 ▲天正十年、勝頼御滅亡之

節、越後江参、芋川越前城主ニ申請、其より 御当家様江御奉公仕、

佐渡御陣、庄内御陣、小田原御陣、高麗御陣御供仕候、其後御国替白

川江参、六百石被下置、御奉公申上候品々 定勝様御代ニ書付指

上申候、其後隱居仕候、嫡子村越庄左衛門ニ三百石、次男九八郎ニ二百石、

三男又右衛門 二百石被下置、九八郎白川ニ而早世仕候故知行被召上候、庄左衛門ハ

福嶋ニ罷在、御馬廻ニ御奉公仕候、庄左衛門実子角左衛門、寛文四年、

何も並知行被召上候 ▲御国替ニ付而米沢江御移之後、直江山城守、

同姓志摩 二百石被下置無役ニ罷在候、大坂御陣之時分、直江平八ニ被

為付、百五拾人之仕配仕、御陣中相勤、御帰陣之後右之人数弥

志摩組二被 仰付、元和九年二隱居仕、拙者実父村越藤左衛門二

式百石被下置候 ▲大坂御帰陣之後、祖父志摩、大坂二而奉公仕、為

御褒美加増可被下候得共、近頃御取立之者二候間、子共之内一人

可被召仕由二而、伯父又右衛門二式百石被下置、其已 後定勝様御代二

町奉行被 仰付、三百石二罷成、後福嶋之郡代被 仰付候、

綱勝様御代隱居仕、実子村越利右衛門二式百石被下置、又右衛門二

百石隱居免二被下候、利右衛門病死仕、実子無御座候付而、又右衛門申上、

拙者二式百石被下置、大小姓二而御奉公、其後中小姓仕、御当代御足輕

組頭被 仰付、御奉公申上候、已上

舟田小左衛門由緒

土橋市郎兵衛、土橋宇右衛門両家共二只今は
与板組ニ無御座候、一名は天明之頃御呵之由
承り候、一名は何之頃御呵ニ相成候哉

関原八左衛門、元禄十年十月廿一日、
吉憲公御守被 仰付、侍組江被召入候

一、養父舟田善左衛門、実子無御座付而、大河原忠右衛門次男私聲名跡ニ仕候

一、善左衛門親左衛門、白川之内立崎と申所之城主ニ御座候、彼地落城

仕、善左衛門幼知故福嶋江罷越、平林蔵人を頼罷在、其已後蔵人

同心組を預ケ鉄炮為打申候、▲定勝様御代ニ御作事屋頭被

仰付、御知行五拾石被下置、綱勝様御代二百石之御加増被下置、

百五拾石ニ而御奉公申上候、年寄申故隠居仕、某家督被 仰付、与

板組ニ被召仕、其已後拙者荒地五拾石拝領仕、築川江被遣、貳百石

罷成、只今十人頭之御奉公申上候、以上

土橋市郎兵衛由緒

一、祖父土橋宮内義、越後之内与板ニ罷在、知行五百石被下、直江山城守ニ

奉公仕、從越後米沢迄御供仕、最上御陣ニ而白岩ニ而討死仕候、土橋義は

直江一家之侍、代々武辺之家と從 景勝様御書被下置、本書

高梨源五郎所ニ御座候、父盛右衛門ニ貳百五拾石跡式被下置、大坂両

御陣ニ御供仕、 綱勝様御代、御足輕鎧組五拾人御預ケ被成候、年寄申ニ

付而隱居仕、嫡子拙者ニ百石、次男宇右衛門ニ五拾石被下置、御奉公仕候、以上

土橋宇左衛門由緒

一、祖父土橋盛右衛門義、隱居仕、嫡子一郎兵衛ニ百石、次男宇右衛門ニ五拾石

被下置、無程病死仕候、実子無御座付而、土橋一郎兵衛次男某ニ家督

被 仰付候、先祖之義、惣領一郎兵衛可申上候、以上

関原八右衛門由緒

一、曾祖父越後二而 上條様ニ御奉公仕候由承伝申候、米沢江御

国替之已後、直江山城守より御知行百石被下置、奉公仕候

一、祖父関原八左衛門、来次塵斎次男ニ御座候、弥左衛門聲名跡ニ被成、

寛永元年ニ家督無相違被下置、其已後御中之間組江被召加、其

後御使番被 仰付、御知行式百石御加増拝領仕、御奉公申上候、正保元年ニ

御中之間年寄ニ被 仰付、御加増式百石拝領仕、寛文元年ニ与板

組宰配頭被 仰付、同九年ニ隠居仕候 ▲親監物義、八左衛門実子ニ

御座候、正保弍年ニ大小姓並ニ被 召加、御切米被下置候、寛文三年ニ

中小姓番頭被 仰付、同四年ニ御中之間組江被召加、同九年ニ祖父

八左衛門家督親監物ニ被 仰付、与板組江被召加、其後病死仕候、跡式

実子某二被 仰付、御奉公申上候、已上

高津五郎兵衛由緒

一、曾祖父高津五郎兵衛御奉公仕、最上御陣ニ罷立、慶長十八年ニ御手明拾人御預ケ、大坂御陣ニ相立申候、高津義、惣社長尾と一家ニ御座候

一、元和五年、直江山城守死去仕候間、景勝様江御右筆役仕、御奉公

申上候、定勝様御官位被遊節、京都江御名代之御使者ニ罷

登、其已後御右筆御赦免被成、御足輕組五拾人被 仰付、御加増被下

置三百石ニ而御奉公申、無程三拾人頭被 仰付、病死仕候、実子源太ニ

跡式被仰付、無程病死仕候、実子無御座故、今井四郎兵衛嫡子拾兵衛ニ

跡式被下置候 ▲綱勝様御代ニ御加増百五拾石被下置、貳百石ニ而御

高橋名左衛門は只今仲間町御馬御下乗高橋

名左衛門先祖力、如何之義力

奉公仕候、其已後御作事屋頭被 仰付、其已後御金山奉行被
仰付、病死仕候、実子某二家督被 仰付候、以上

高橋九右衛門由緒

一、先祖高橋義、三本寺殿御先祖御情二而御家中二被差置候時分、

越中二而討死仕候、嫡子高橋内記代二本庄豊後殿七人之与力之

内二被召加候時、賀茂江参候、其已後与板組江付申、百五拾石被下

置候、高麗御陣御供仕候、其後大坂御陣二御足輕組被 仰付、相勤候、

定勝様御代、御足輕三十人御預々被成、其已後病死仕、嫡子五兵衛二跡

式無相違百五拾石被下置、其後病死仕候、家督拙者二被 仰付、

御奉公相勤申候、以上

高橋名左衛門由緒

一、拙者之義、高橋五兵衛次男ニ御座候、綱勝様御代ニ新御扶持被下置、与板組江被召加候、先祖之義、惣領高橋九右衛門申上候、以上

山下新兵衛由緒

一、先祖山下伝内義、御知行百石被下置、御勘定役ニ而御奉公仕候、其後病死仕、実子権右衛門ニ家督百石無相違被仰付、与板組江被召加、其已後御金山奉行被仰付、其已後権右衛門病死仕候、実子十右衛門ニ家督被仰付、御右筆仕候、其已後病死仕候、男子無御座候故、御馬廻之内志賀九郎右衛門次男某聲名跡ニ被仰付、与板組江被召加、御奉公仕候、以上

中里岩太郎由緒

一、曾祖父中里与右衛門、於越後与板普代ニ御座候、御当地江御国替已後、御

知行百石被下置、御奉公仕候、其已後病死仕、家督実子孫兵衛ニ無

相違被下置御奉公仕、病死致候、実子無御座候故、孫兵衛弟与左衛門ニ

家督被 仰付、病死仕候、実子与右衛門ニ家督被下置、病死仕候、

実子某ニ跡式被 仰付候、以上

立岩半三郎由緒

一、先祖立岩五郎兵衛隱居仕、嫡子久之丞ニ家督相渡、五郎兵衛法体致候故、

御扶持被下置罷在候処、五郎兵衛次男仙右衛門、十九之年御扶持切米

被下置御奉公申候、 綱勝様御代、江戸御台所役被 仰付、

定詰仕候、其後御知行百石被下置、善右衛門 二罷成御奉公申、隠居仕候、家督之義、親平左衛門 二被下置、無程隠居仕、家督実子某 二被 仰付、御奉公申上候、先祖之義、惣領立岩庄右衛門委可申上候、以上

小田切五郎助由緒

一、曾祖父小田切左馬之助、御奉公之品稻荷山城主 二被差置、

其已後同国仙見之城 二罷在候 ▲天正十年七月廿四日、 景勝様

おね表江御働之刻、御先掛仕手柄致候付而、御加増拝領申候、

右之地塩田郷之内、下郷・中野・本郷三ヶ村之内、千五貫文之处

被下置、則 景勝様御朱印于今所持仕候 ▲天正十弍年八月十

三日、稻荷山口青木嶋表江小笠原兵部相働候処、出向首十三

討取節、景勝様御感状頂戴仕、于今所持仕候

一、天正十三年九月三日、仙見之地於梨窪、仁科之勢首廿三自

身鎧下之高名二ツ仕、則景勝様御感状于今所持仕候

一、天正十四年七月十四日、如先代本領無相違之趣、景勝様御朱印于今

所持仕候、▲新発田御陣被遊候節、日暮一戰仕候、依之御軍法相背

之段被仰出、改易二罷成、無程病死仕候、祖父与五右衛門、右之仕合

故軍人致候、定勝様御代二御普代之義二候間、以目安御訴訟申上候

処二相叶、親兵左衛門帰参被仰付、御扶持切米拝領、大小姓二被召仕、

江戸定詰相勤、其已後番頭仕、其後病死仕候、実子拙者家督被

仰付、与板組江被召加候、以上

上倉利兵衛由緒

一、拙者親上倉七兵衛次男ニ御座候処、慶安四年ニ新御扶持被下置、

御姫様御小姓並ニ御奉公仕候処、松平飛騨守様江御祝義之砌、御暇

被下置、与板組江被召加、御奉公仕候、延宝五年二月、常州中湊御上米

役被 仰付、先祖之義、同姓七兵衛可申上候、以上、

正木宇左衛門由緒

一、養父正木市左衛門、所生奥州白川之者ニ御座候、昔白川之守護

関入道義親没落被致、家来共方々江牢人ニ罷成、其節市左衛門

若輩ニ而御当地江罷越、平林藏人頼罷在候処、御扶持方組江被召加、

其以後与板組江被召加、

其已後隱居仕、御馬廻之内村山長左衛門三男某聲名跡ニ被

仰付候、以上

立岩次兵衛由緒

一、立岩小右衛門次男ニ御座候、当春新御扶持切米被下置、御奉公仕候、先祖之義、惣領立岩藤左衛門可申上候、以上

多功勘之丞由緒

一、定勝様御代、寛永十年ニ祖父多功豊後若キ時分走廻候儀、

就御尋書付差上申候、留書手前ニ御座候間書上申候

一、謙信様御前ニは拙者七ツニ罷成候年より御奉公申上候処ニ、拙者十四ニ

罷成候年、関東上野御出馬被成候時、皿窪と申城御責被成候時、於

御眼前高名仕、御脇差とくらはの御袷拝領仕候事

一、同年ごらん田之城御責被成候時、一日之内ニ高名首数三ツ取申候、

御前江被召出、吉江織部を以金子拝領仕候事 ▲越中御出馬

之時、戸山ニ向、稻荷山と申所を附城ニ被成候時、三月十八日、いたら川ニ而

掛合之軍御座候時、鎧下ニ而高名仕候処ニ、きんらんの御羽織拝領

仕候事 ▲越中坊山ニ之丸迄責為入被成候時、鎧仕候とて、御盃頂戴

仕候事 ▲加賀まつとう御責よせ被成候、城主蕪木右衛門と申者ニ

御座候、手責ニ被成候時、大手之堀きわニ而左之ひさ口同所こふらを鎧ニ而

高名仕候時、拙者

つきぬかれ手負申候而、漸のけ申候時、有坂備中御取次ニ而、御酒御菓

拝領仕候事 ▲能登初而御陣之時、極月廿八日、大念寺口ニ而高名

仕候、吉江織部を以御小袖拝領仕候、其年御越年被成、来春奥之

との者共七尾之城江入申由被聞召、七尾ミかさに鳥井小屋と申

処二草を御ふせ被成候、拙者も草二而参候而、七尾江入申者共多クうたせ、

拙者も高名仕候而、御盃頂戴仕候事 ▲景勝様御代ニおたてと

御取合度々御懸合之時、春日山より安田惣八郎ト大関弥七ニ被 仰付、

志徳寺口ニ而押まわし、御館之城きわニ而高名仕、則右両人之御取

次ニ而山布二端拝領仕候事 ▲甲州よりいな四郎殿くひきと時坂之

表ニ而御陣を被成候時、春日山御出見ニ御出こミねと申所ニ御馬を被

立置候、御館江は清野を加勢ニ御入被成、四郎殿は時坂江御帰被成候而、

時坂さめか尾の御普請被成候時、大場口より安田惣四郎、大関弥七、いら

ミね、河田軍兵衛、皆々取出被申候、小田浜江はとりとりニ罷出候、益而

小田明神岩戸ニは春日山より物見を御出し被成候而被差置候、右物見

之者共一所ニ被成候而、小田之浜浪きわにて鎗仕候而、清野内ノ者討取、

高名仕候付而、せんりう、狩野兩人を御取次ニ而板之物拝領仕候事、

一、おたて落城之時、三郎殿さめか尾江御のけ被成候時、春日山より

したひ、城之内ニ而高名仕、御盃頂戴仕候事 ▲越中大津御出馬之時、

天神山ニ而御陣被成候時、拙者共ニは新発田御心意なく被思召ニ付而、笹岡

之城江御加勢ニ御越被成候処ニ、笹岡江新発田因幡責よせ申候得共、城を堅

固ニ持申ニ付而、其日七ツ時分人数共ニ引のけ申所ニ、拙者傍輩青海川

図書卜相談仕、笹岡之城下ミたれ橋迄したひ申、兩人之手にて

新発田之者共二百人程手負死人ニ仕候而、景勝様御感状拝領

仕、于今所持仕候 ▲新発田落城之時、大手之土手ニ而組討仕、水掘江

組落、其きつけの高名仕、直江山城守取次ニ而御酒拝領仕候事、

一、佐渡御陣之時、出雲崎ニ御馬を被立候、先舟には留永を被遣候、拙者

共跡舟ニ御座候、潟上江舟を入申筈ニ御座候を、くじと申所より海賊を

出シ、嶋津舟之者共討取申、舟共ニ引のけ申処を、拙者舟をよせ、海

賊共手をおゝせ払のけ、嶋津舟を引取申所、へぶこの内ニ金箱

無手右衛門と申者いき残り申を拙者舟ニ而引のけ、袖之かいふわり崎之

みなとゝ乗申所ニ風替り舟行来罷成不申付而、大すみと申所江あかり、

大すみのねこや焼払、御本陣ニ而も風替り申候得は、無心元可被思召

ために放火仕候、扱さわね江御着被成候時、拙者金箱被召出、直江山城守

取次ニ而兩人ニ卷物ニ端被下置候事

一、祖父多功豊後、大坂御陣御足輕五拾人、出人五拾人被 仰付、慶長

拾九年霜月廿六日ニ手負申候、御帰陣之上御加増貳百石被下

置、四百石ニ而庭坂江被遣、給人足輕之将ニ被 仰付、其已後高畠

御城代被 仰付、御奉公相勤申候、祖父豊後嫡子大学、拙者親ニ

御座候、豊後年寄申候付而、右之大学、寅之年之御上洛ニ四百石之御

軍役ニ而御供仕候、其已後蒙御勘氣候、其已後御赦免被遊、病死仕候、豊後

若キ時分、山浦源五殿ニ奉公仕由申伝候 ▲祖父多功豊後病死仕

砌、某幼少故、大学弟石原四郎兵衛ニ豊後家督百五拾石被下置候、

其已後綱勝様御代、御加増五拾石被下置、無程御足輕五拾人鑓組

被 仰付、御加増百石被下置、年寄申二付而隱居仕、大学実子拙者二

家督被 仰付、只今十人頭並之御奉公申上候、以上

北条市之進由緒

一、祖父北条右近米沢江罷越、新戸御城代被 仰付、右近子四男親主水二

定勝様御近所二被召仕、其已後御知行百石拝領仕、与板組江被

召加候、 綱勝様御代、御加増百石被下置、其後御使番二被召加、御加増

被下置三百石二罷成、其已後御鑓足輕組五拾人御預々、無程三十人

病死仕候、跡式実子某二被仰付御奉公仕候、△

頭被 仰付、御奉公申、△先祖之義、惣領北条 一兵衛申上通二御座候、

以上

山崎五右衛門由緒

一、祖父山崎五右衛門義、所生近江之内山崎と申所ニ御座候、御当地江罷越、直江山城守江奉公仕候処、御知行三百石被下置、御扶持方組御預ケ、大坂両御陣相勤候、其後 定勝様御代、御鉄炮足輕組五拾人御預ケ、其已後三十人頭被 仰付候、五右衛門 一世之内、所々御陣ニ而御奉公仕候、某親次郎右衛門、新御扶持拝領仕、其後新知百石被下置、江戸定詰被 仰付、御奉公相勤候、 綱勝様御代、御加増百石拝領仕、貳百石ニ罷成候、 御当代ニ御鎧足輕五拾人御預ケ御奉公仕、病死仕候、 実子某ニ家督被 仰付、御奉公仕候、以上

吉池新右衛門由緒

一、景勝様御代、曾祖父吉池五右衛門、信州屋代ニ罷在御奉公仕候、其後

会津江御移国之時御供仕、米沢江参候、其砌御当地ニ而は式百石被

下置、与板組ニ而御奉公仕候事、▲最上御陣ニ御足輕五拾人、五右衛門ニ

御預ケ、はたや口江被遣候、其已後大坂両御陣ニ、祖父新右衛門、次男七兵衛

兄弟共ニ召連罷登候 ▲祖父新右衛門義、五右衛門息災之内御扶持被下

置、別而御奉公仕候、其上御扶持方衆十人御預ケ被差置候、最上源五郎殿

崩ニ右之御扶持方衆拾人引連、八沼江被遣候 ▲寛永二年、五右衛門

江戸御番ニ罷登、在番中病死仕候、新右衛門ニ家督被 仰付、式

百石之内百石被下置候、残る百石は新右衛門弟之七兵衛ニ被下置候

一、正保元年ニ新右衛門隠居仕候、親長右衛門ニ家督無相違被 仰付候、

長右衛門義は東条加々右衛門三男御座候、綱勝様御代、御金山奉行被仰付、無程病氣ニ罷成隠居仕候、某家督被仰付候、拙者義、東条造酒次男ニ御座候、以上

櫛田権左衛門由緒

一、景勝様京都伏見ニ被成御座候時分、祖父加兵衛窄人ニ罷在候処、杉原常陸、丸田伊豆、知人ニ付而、御一乱之時分会津江罷下、御奉公申候、其已後最上御陣ニ無比類働之由、為御褒美御知行三百石無役ニ被仰付候、直江山城守より感状并御知行之御判形于今所持仕候、杉原常陸より陣中働之褒美之状も御座候 ▲祖父加兵衛、年寄申隠居仕、親加兵衛ニ貳百石被下置、与板組江被召加、御奉公仕候

処、病人ニ罷成隱居仕候、男子無之ニ付而、小嶋次左衛門嫡子市郎左衛門

無相違家督被 仰付、御奉公仕、病死仕候、男子無御座付而、佐野

吉兵衛三男拙者聲名跡ニ被 仰付、家督仕候

一、綱勝様御代ニ、拙者十二才より御近所ニ被召仕候、其後御手水番ニ被召仕、御奉公申上候、御当代迄ニ廿五年、御奉公申上候

平賀甚左衛門由緒

一、於越後平賀志摩、同惣左衛門と名乗御奉公申上候、此末々之由

申伝候 ▲祖父平賀次兵衛、直江山城守江奉公仕、江戸ニ而病死仕候、

実子平賀勘助ニ家督百石被下置、直江後室ニ奉公仕、其已後

与板組江被召加、御奉公仕候、病死仕候、男子無之ニ付而拙者聲

名跡ニ仕候而、家督被 仰付候、実父は清水久左衛門末子ニ御座候、
祇今御奉公仕候 ▲親勘助、幼少ニ而次兵衛病死仕候間、先祖之
儀委細不承伝候、已上

飯田甚右衛門由緒

一、親飯田織部、本国宇津之宮之者ニ御座候、御当家江若松ニ而罷出候、
京都御軍役相勤、最上御陣之時、仙道之内岩城境石河と申所ニ
被差置候、米沢江御移之後、平林蔵人ニ御預ケ、御知行百石被下置
無役ニ罷在候、 定勝様御代ニ、宇津宮ニ而走廻之様子就御尋、松本
助兵衛を以書付差上候処ニ、御加増百石被下置、二百石ニ而御奉公申
上候而、已後病死仕候、実子某ニ跡式被 仰付、御奉公申上候、以上

大石
加藤兵右衛門由緒

一、曾祖父大石右衛門、關東入御手時分、從 輝虎樣被下置御

書二通、尅通于今所持仕候、祖父大石兵右衛門代 二大石播磨殿御

用御達被成 二付添罷在候故、大石名字致遠慮、母方之加藤を名

乗、御知行百五拾石被下置、御奉公仕候、無程公事奉行被 仰付、其

已後御勘氣 二而病死仕候、 定勝樣御代 二親仁右衛門 二五拾石被下置、

与板組江被召加、御奉公仕、其後会津御前樣御台所頭被 仰付、

御奉公申上、已後病死仕、跡式某 二被 仰付、御奉公仕候、以上

高野茂兵衛由緒

一、先祖越後御普代 二御座候、祖父高野与右衛門 二御知行五拾石被下置、

与板組江被召加御奉公申、病死仕、家督某親与右衛門二被 仰付、

其後隱居仕、家督某二被 仰付、御奉公仕候、以上

小嶋專助由緒

一、先祖之義は同名五兵衛申上候、養父小嶋六郎左衛門、寛永十六年二

開地百石被下置、与板組江被召加、御奉公仕候、拙者義、石坂長左衛門

次男二御座候、男子無御座付而、聲名跡二罷成、六郎左衛門病死仕、跡式

某二被仰付、御奉公仕候、已上

青海川彦右衛門由緒

一、先祖青海川図書、越後御普代二御座候、彼者 為景様御代二

父子討死仕候付而、孫二名跡無相違被下置候、永正年中、從 為景様

被下置候御判形所持仕候、右之孫図書も山下と申所ニ而討死仕、

其子梅千代ニ被下候、為景様御判形持合仕候、右之梅千代、後ニ

図書ニ罷成、謙信様御代迄御奉公仕、病死仕候、其子図書二名を

御改一跡無相違被下置候、謙信様御判形于今所持仕候

一、謙信様御代ニ、信州より村上殿御出候已後、山浦名字之義村上国清ニ

被仰付候、其節国清越後之様子御存知有間敷由ニ而、青海川

図書を御付被成候、此時より山浦之家ニ相勤候、然共御直衆同前二万端

被仰付、景勝様御代迄、御三代御書御感状共ニ拝領仕候

一、御館陣之時、御忠信仕ニ付而、景勝様御朱印之通、尾崎村、堀川

村加増仕候、其時之御朱印共于今所持仕候

一、越中御陣之御先より新発田為押、多功豊後、青海川図書、同名

彦太郎三人、笹岡之城江被 仰付、右之刻新発田相働候、守返シ追

討仕、乱橋と申所迄敵討捕候首数披露仕候处、御褒美ニ候

景勝様より御感状被下置、于今所持仕候 ▲從越後会津江御国

替之節、仙道塩之松之城山浦ニ御預ケ被成候、其節多功、青海川

同前ニ相勤罷在候、然所ニ於京都山浦被致死去、名絶ニ付而、多功、

青海川義は百五拾石ツゝ被下置、直江山城守ニ御預被成、多功桧原ニ

被差置、足輕五拾人差引仕相勤候、青海川図書は綱木之将を

被 仰付候、証文等于今所持仕候、無程会津米沢江御移ニ付而、兩人

共ニ御知行被召上、五人扶持ニ被成、米沢江移申候 ▲図書子長助、

山城守所ニ小姓奉公ニ而罷在候、其御扶持ニ而多功豊後庭坂江被遣候時、長助事豊後ニ首尾御座候付而、同前ニ罷越、其已後豊後高畠江移り申付而、同前ニ参候而、于今罷在候 ▲図書惣領私若輩成時相果ニ付、拙者事幼少より図書養育を以跡式某ニ相渡、一拾ケ年ニおよひ御奉公申上候、已上

吉池利右衛門由緒

一、先祖之義は吉池新右衛門申上通ニ御座候、某義は吉池七兵衛次男ニ御座候、先年御扶持切米被下置、御歩行之御奉公仕、其已後与板組江被召加、其上御加恩被下置、于今御奉公申上候、以上、

内藤吉十郎由緒

一、祖父内藤左門、甲州之内真田河内殿ニ而三百石被下置罷在候処、

不慮之義御座候而、御当地江牢人仕候、然ハ横田式部中山御城主ニ

御座候刻、式部取成を以御知行五拾石被下置候、最上御陣之時、討

死仕候 ▲其砌拙者親新右衛門若輩ニ御座候付、家督不被 仰付、

拾三年余無足ニ罷在候処、新右衛門成人仕、右之趣御訴訟申上候処、五人

扶持被下置、御扶持組ニ被 仰付、御奉公仕候 ▲其後御切米被下

置、米沢金山奉行被 仰付、其已後与板組江被召加、其已後病死

仕候、某ニ跡式被 仰付、御奉公仕候、以上

山崎連兵衛由緒

一、先祖代々与板普代ニ御座候、越後御国替之時分、祖父山崎連兵衛、

米沢ニ而百石被下置、越後より普代之者数多召連罷越申付而、扶持仕兼可申由ニ而、直江山城開作地被下置、尾長嶋村ニ而高六拾三石致開作候、右之開作之地、只今は同姓惣左衛門手作仕申候

一、大坂御陣之時分は、祖父連兵衛御足輕三拾人御預ケ、嫡子甚六も

召連、大坂両陣共ニ御供仕申候、祖父連兵衛隱居仕、甚六ニ家

督被 仰付砌、百石被下置候、寛永拾年ニ御加増被下置、貳百石ニ

罷成候節、甚六名を改、連兵衛ニ罷成候、其後御鉄炮足輕組被

仰付、三百石ニ罷成、其後病死仕、某ニ家督被 仰付候、只今十人頭

並ニ御奉公申上候、以上

一、曾祖父相浦源右衛門、御馬廻ニ御座候、然所与板組江被召加、公事奉行

被申付候、右之跡式祖父源右衛門ニ貳百石被下置候、祖父源右衛門跡式、

親源右衛門貳百石拝領仕、其已後御扶持方組被 仰付、三百石ニ罷成、

無程三拾人頭仕、其已後御加増被下置、五百石ニ而御中之間年寄被 仰付、

病死仕候、跡式実子拙者ニ被 仰付候而、与板組江被召返、御奉公仕候

一、先祖ニ而頂戴仕候御書御感状、御馬廻之内相浦善左衛門所ニ所持仕候、以上

角三左衛門由緒

一、祖父角孫四郎と申候、江洲布施淡路守 一家普代之者ニ御座候、

一とせ三好將軍ト近江六角殿ト 一戦之刻、淡路守 六角方を仕、

めくらり山と申所ニ陣取、三好方はかくら岡と申所ニ陣を張候、祖父

欠損・文字数不明) □□太郎□子志解太、

天保年中盗一件二付、中津川詰牢人

被 仰付、名字断絶

孫四郎義、淡路守手ニ而宰配を仕、鳥羽参河兩人ニ鑑合、則同日ニ首二ツ討取、六角殿江入実驗候処、御感状被下候、惣領角源兵衛所持仕候、中書供致与州江罷越候 ▲大閤様より越前之柴田殿御

退治之節、淡路守柴田方江出勢致候故、柴田没落故淡路守も

流人ニ罷成候付而、家中之者共ちりちりニ罷成候、祖父孫四郎義、淡路守

妻子数年見届、其後会津宰相殿ニ而知行三百石被下罷在候、

其後ニ隱居仕、惣領源兵衛ニ家督相渡、法体仕角一露と申候、

隱居分ニ拾五人扶持被下候、其後源兵衛義は中書供仕、与州江罷

越候、右之趣先年先祖御尋之節書上候留、于今御座候間申上候

一、親角三左衛門義は先年御家中ニ罷在、志賀与惣右衛門甥ニ御座候、御当方江

罷越節、志田修理方江志賀与惣右衛門狀を差添候、二付而被召抱、御知行百石被下置、与板組江被召加、御奉公仕候、会津御勢遣之時、騎馬二而罷越候、親三左衛門義、万治元年二病死仕、家督実子某二被 仰付、御奉公申上候、已上

須崎勘七由緒

一、須崎主税義、本国は信州之者二御座候、從越後若松江御供仕、直江山城守江奉公仕、貳百石被下、於米沢公事奉行仕、世倅加右衛門は山城より五人扶持被下奉公仕候、主税義は春日右衛門、平林藏人、志田修理右三人之衆郡代之時分迄、右之役相勤候、年寄申二付而隱居仕候、家督祖父加右衛門二無相違貳百石被下置、其後御使番被 仰付、百石御加増

被下置、其後四百石ニ罷成、御奏者役相勤、其後切死丹奉行被 仰付
相勤、病死仕候、家督親吉之丞ニ被 仰付、無程病死仕、某ニ跡式
被 仰付、御奉公申上候、以上

高坂三之丞由緒

一、先祖高坂左衛門、天正十四年之頃、於庄内幼少之名は猿黒丸と申
時分、高坂之城本領安堵無相違之旨、義興之御書于今手前所持仕候、
其後御当国江罷越、御知行六百石被下置、御奉公申上候所、御国せまく
被為成 二付而貳百石被下置、御足輕組御預々被成候、其後築川之城代
被 仰付相勤候、其已後病死仕、嫡子金左衛門 二百石被下置、此方江引
越候而押付御加増拝領貳百石ニ罷成候、金左衛門病死仕、実子熊之助

則貳百石可被下置候得共、年五歳ニ罷成、余幼少ニ御座候付、百石被

下置候、拾七才ニ罷成候は本地貳百石可被下置候旨、御奉行中本村

監物ニ被 仰付、則監物書付印判手前所持仕候、其後熊之助

相果、実子無御座候付而、小嶋次左衛門三男拙者ニ家督 被仰付、

只今御作事頭被 仰付、御奉公申上候、以上

永井五郎助由緒

一、祖父永井縫殿之助、越後ニ而岩諸ニ罷在候、小国三河所ニ奉公仕候、

先祖之義惣領永井源右衛門所より書付差上申通ニ御座候、縫殿之助

病死仕、跡式之義源右衛門親弥左衛門兄弟ニ五拾石ツゝ被下置候、弥左衛門

病死仕、家督某ニ被 仰付、御奉公申上候、已上

小嶋五兵衛由緒

一、先祖之義、祖父小嶋次左衛門、下越後之内井手ト申所より牢人、御
国替之翌年此方江参候、大舟村之内柳沢江落着、最上御陣ニハ
馬上ニ而春日右衛門手ニ付罷立御奉公仕、手負申候、御帰陣之後、御
知行百石被下置、下長井之内拾ニヶ村之代官被 仰付候、大坂
御陣ニは親小平次と申時分、拾八才ニ而罷立、山城所江奉公仕候、元
和元年ニ祖父病死仕、親ニ家督無相違被 仰付、次左衛門ニ罷成、
寛永拾五年ニ百石御加増拝領仕、貳百石ニ罷成候、拙者義、慶安四
年ニ貳百石之判形申請、八百石余開作之地取立申内、百石被下
置、明暦元年より与板組江被召加、御奉公申上候、以上

中丸助右衛門由緒

一、祖父中丸太郎左衛門、会津之内中丸と申所ニ罷在候、其節盛氏江

奉公仕候処、政宗と一戦有之之時、太郎左衛門高名首八ツ取申候、

定勝様先手御尋ニ付、書付差上申候下書所持仕候、盛氏没

落之時分牢人仕候 ▲横田終安、中山之城代被 仰付候、太郎左衛門義、

牢人ニ而罷在候、終安ニは甥之義ニ御座候得は、彼人を頼、中山江罷

越候、慶長五年九月十七日、上ノ山城主里見民部卜一戦之節、上山

川口之地ニ而太郎左衛門高名仕候証拠御座候 ▲慶長六年三月廿四日、

川口之地ニ而掛合御座候処ニ、上山城主里見民部嫡子権兵衛、先掛仕候、

兼而より大将と見届、押合勝負可仕と存候処、敵見合引返シ申ニ付而

不打留、小簾計切落シ、其日より自分の小簾差置切取申候、九よう

もりこほし紋之小簾差申候 ▲上山城下高松と申所ニ、敵数多引

まとひ罷在候を、祖父太郎左衛門、武頭ニ而雑兵共ニ三百程召連、夜かけ
押落申候、其已後中山同心扶持被下置、御奉公申上候

一、寛永八年六月三日、横田終安病死仕、其節同姓式部米沢江罷

越候付、祖父太郎左衛門義、無比類御奉公仕候間、可被召仕と志田修理、

松本助兵衛を以被申付、則御知行五拾石被下置、与板組江被召加、

其後四、五年相過、百五拾石御加増拝領仕、貳百石ニ罷成候、会津

御勢遣之節、親助右衛門、三瓶大蔵組ニ而罷在候、其已後太郎左衛門病死仕、

同姓助右衛門貳百石無相違被下置、家督被 仰付候、親病死仕、拙者ニ

百石被下置、御奉公申上候、以上

安部三四郎由緒

一、安部右馬之助義、先年御金山奉行仕、其已後吉見次右衛門御代官差

上申付、跡役被 仰付候、已後江戸御普請、会津御勢遣之時分、

於他国首尾好御奉公相勤申段被 仰渡、其上右馬之助男子兩人

御座候、次男取立申様ニと貳百石之開之御判形被下置候、其後

右馬之助惣領左助病死仕ニ付、次男七郎右衛門ニ御代官被 仰付、右之

御判形を右馬之助聳安部清左衛門子共親伝右衛門ニ被下置候、段々

切開仕、北条之内松沢、金沢、上野原、於三ヶ所ニ合五百八拾六石開

作仕内、御知行貳百石伝右衛門拝領、与板組江御入、其御築川江被遣

鳥山権兵衛と申者之子孫、只今与板組二

無御座候、此鳥山ハ御小納戸組之鳥山方

被差置候、病死仕、某二家督被 仰付、五拾石被下置、御奉公
申上候、以上

鈴木勘左衛門由緒

一、慶安元年八月中、鈴木長左衛門御知行五拾石拝領仕、与板組江
被召加、御奉公仕、其後致隠居候付而、実子庄左衛門二跡式被
仰付、其後病死仕候、実子無御座付而、山崎五左衛門次男某二家
督被 仰付、御奉公申上候、以上

横山市右衛門由緒

一、祖父武藤掃部、庄内之内横山と申所之城二罷在候、越後之御
手二入申後病死仕、嫡子清右衛門若輩故、跡式不相立候、清右衛門母ハ

大川三河守娘、此子共式人之内、私親女子小国稻葉妻ニ罷成候、此腹之
子女子来次左近妻ニ罷成候 ▲父清右衛門は在名横山を名乗申候、右之
横山ニ普代之者于今数多御座候 ▲拙者義、近藤五郎左衛門御郡代之節、
御扶持被下置候、其後黒川右衛門御取成ニ而与板組江被召加候、其已後
与板組之御扶持方差紙役仕、御奉公仕候、以上

鳥山権兵衛由緒

一、先祖之義、鳥山五左衛門申上通ニ御座候、某義、鳥山監物次男ニ御座候、御
当代ニ御扶持拝領仕、与板組江被召加、御奉公申上候、以上、

矢木伝左衛門由緒

一、先祖越後御普代ニ御座候、会津米沢迄御供仕、其上祖父矢木伊左衛門、

御歩行十人頭仕、御奉公相勤申二付而、与板組江被召加、御奉公仕候、病死
仕二付而、親伊左衛門二家督被仰付候、其後伊左衛門隱居仕候、実子無
御座二付而、御扶持方之内増田伝左衛門次男某二跡式被 仰付、御奉公
申上候、以上

太田与次右衛門由緒

一、祖父太田清兵衛、 長尾景直様江御奉公仕候、景直逆心被遊二付而、
直江山城守江奉公仕、百五拾石被下置、最上御陣江御供仕候、清兵衛男子
無御座付而、香坂備前次男与次右衛門聲名跡二仕、大坂両御陣父子共二

罷立、清兵衛年寄申二付而隱居仕處、隱居免二五人扶持被下置候、与次右衛門二家督無相違百五拾石被 仰付候 ▲定勝樣御代、与次右衛門御使番被

仰付、百五拾石御加増拝領仕、三百石ニ罷成候、其已後御鉄炮組御足輕

五拾人御預被成候 ▲養父与次右衛門、男子無御座付而、宇留賀忠右衛門次男、

下条図書弟拙者聲名跡ニ仕候、 定勝樣御代、私十六之年より

御近習御奉公仕、其已後大小姓組江被召加、与次右衛門隱居仕付而、私家督

貳百石被 仰付、御中之間江被召加、其後綱勝樣御代ニ御使番被

仰付、御加増百石被下置、三百石ニ被成下、名改与次右衛門ニ罷成候、 御当代御

扶持方組八拾人余御預々、只今三拾人頭被 仰付、御奉公四拾四年仕候、

以上

大河原太郎右衛門由緒

一、祖父大河原主水義、天正時代迄仙道之内大槻卜申処之城主ニ罷在候、

盛国判形所持仕候、▲会津江御国替之時節、御抱ニ罷成、白川ニ被差置候、

信夫御陣之節は福嶋之城ニ被召仕、翌年最上御陣之時分、杉原常陸

守手ニ付罷立候、其已後福嶋江罷帰、金屋と申在処開作仕罷在候処、

慶長拾二年被召出、信夫之内名倉村ニ而御知行式百石被下置候、平林

藏人判形所持仕候、米沢江被召寄、御奉公仕候 ▲祖父主水年寄申付而

隠居仕、家督実子平兵衛ニ無相違被仰付候、 定勝様御代、寛永拾

壹年ニ御扶持方組被 仰付、御奉公相勤申候、親死去仕、家督拙者ニ百石、弟

平兵衛ニ五拾石被下置候 ▲綱勝様御代ニ御加増百石被下置、貳百石ニ而御奉公仕候

一、御当代ニ御扶持方組御預ケ、御加増百石被下置、御奉公仕候、以上

坂瀬兵衛由緒

一、親次郎右衛門義、蒲生源左衛門於家中千石ニ而家老頭仕、源左衛門他參被致、次郎右衛門義窄人仕候処ニ、蒲生下野殿より如毎々之何時も先手之将可被申付之直判之御書被下、致帰參千石被下置、并九百石は鉄炮之者三十

人之為扶持分、都合千九百石御黒印ニ而拝領仕候、右先年可被申付御

判形知行分御墨印共ニ三通所持仕候、大閣様御時、筑紫巖積、

關東ニ而相州小田原、奥州乱国、何時も先手之将仕、数度之高名

致申ニ付而、右之通ニ候 ▲会津窄人仕、御領分罷通段山城守殿被聞召、

平林ニ被仰付、南町ニ宿被相渡、御留被差置候、其砌大坂後之御陣ニ罷立

御帰被遊上五百石拝領仕、平林書付所持仕候 ▲江戸石垣御普請之節、

乍兩度罷登、 公方様江御目見仕、御紋之呉服御帷子拝領仕候

一、景勝様御代、江戸百日御番転罷登候処、父子共二末々迄御番之義

御免被遊之段、千坂伊豆を以被 仰付、御前被 召出、御暇被下置、

有難蒙 上意罷下、右之段来次出雲方より芋川縫殿方江為

知被申状、所持仕候 ▲景勝様御代、山城守極月十九日死去ニ付而、其已後

元日之御出仕ニ与板何も並ニ相詰申所ニ、山岸中務奉ニ而嫡子庄次郎

共ニ侍並、夏井勘右衛門次江可罷出之段、被仰渡、則上意之段御礼申

上候 ▲定勝様御代ニ次郎右衛門儀、与板組番頭被 仰付候、某若輩之

時分、親次郎右衛門相果申、跡式百石被仰付候 ▲綱勝様御代、御加増

百石拝領仕、其後 御当代ニ御足輕組御預ケ、百石之御加増被下置、只今御奉公相勤申候、以上

須崎弥右衛門由緒

一、祖父須崎彦兵衛、信州稻荷山之地被下置罷在候、彦兵衛隱居仕、

親鞆負百五拾石ニ蒙督被 仰付、御国替之節、米沢城代春日

右衛門ニ被 仰付ニ付而、鞆負被相添罷越候、其砌最上御陣相勤、其已後

大坂両御陣御供仕候、 定勝様御代ニ弐百石ニ罷成、其後御鑓組御足輕

五十人御預被成、御加増拝領仕三百石ニ罷成、其節名改隱岐ニ罷成候、

隱岐相果、某ニ跡式弐百石被下置、只今十人頭仕、御奉公相勤申候、

以上

高野太郎兵衛由緒

一、先祖之義は同姓吉左衛門可申上候、私御奉公之義、寛永三年九歳より定勝様御近習ニ被召仕、寛永拾壹年、御上洛之御供仕候、其後大小姓並之御奉公仕候、綱勝様御代、万治貳年、新知百石被下置、已後中小姓ニ被召仕、御当代与板組江被仰付、只今十人頭仕、御奉公相勤申候、以上

清水源左衛門由緒

一、先祖、信州塩崎二代々居住仕候、曾祖父三河、甲州没落之砌、信州森勝蔵殿ニ被仰付、其砌本領無相違書付于今所持仕候、然処信長公御生害之由申来ニ付而、為防戦之勝蔵殿早速上洛ニ候、因茲信州

侍共、先達而御忠進申上処、三河義被聞召及二付而 景勝様より御忠

進可申上由、御書被下置候、所持仕候、則御請申上、信州江御出馬之節、

信州四郡御手二入、海津之城江被為入候、其砌荒砥之城番信州衆致二

付而、清水三河二此番帳を以当番相改可申由、御朱印被下置所持

仕候、其後於塩崎、諸軍勢濫妨狼藉無之様二仕置可仕御朱印所

持仕候 ▲其後御国替二付而、信州より慶長三年三月、子共清水久左衛門、

同喜兵衛、古川善兵衛、以上三騎、同心二は中村主水、藤本伝右衛門、松林

市郎右衛門、中村甚右衛門、岩井六左衛門、宮坂左近、以上六騎、三河共二馬上十騎、

足輕廿人、上下従類共二御当国江罷越、小松村江参着仕候処二、懸入石

中山之地江被遣付而、子共同心足輕迄無殘召連罷越候、此同心子孫于今

中山之同心ニ而罷在候、最上御一乱之時分、右之同心馬上足輕引廻走り廻り申候、足輕之義、未中山ニ而清水平左衛門組ニ御座候、其後慶長拾年、貳百石ニ罷成候、已後春日右衛門所より往昔千石貳千石被下置候と忝奉存、子共同心引廻、弥御奉公可申上旨、書狀墨印所持仕候

一、曾祖父三河年罷寄隱居仕、惣領久左衛門二百石、次男喜兵衛百石

被下置候、其後喜兵衛義、開地御判形申請、百五拾石開申ニ付而、則被

下置候、右之百石惣領久左衛門所江相返申ニ付、本知二百石ニ罷成候、三河

隱居免ニ拾二人扶持被下置、已後三河相果申ニ付而、曾祖父久左衛門米

沢江引越、御奉公申上候、無程鑓組之御足輕五十人被仰付、御加増被

下置、三百石ニ罷成候、祖父久左衛門年寄隱居仕、親久左衛門ニ家督二百石被下置、

以後御鉄炮組之御足輕五十人御預、御加増被下置三百石ニ罷成、親久左衛門隱居仕、某ニ家督被

仰付、

只今拾人頭仕、御奉公申上候、以上

芦川九兵衛由緒

一、武田信玄公江御奉公仕候、曾祖父芦川藤蔵、於信州合戦之砌、信玄公より証文

給候、未所持仕候、身立は信州井之上拾七騎之内、其後御国替之節、祖父

芦川盛右衛門御当地江参、直江山城守江奉公仕候、最上御陣之時分、

右之盛右衛門討死仕、家督芦川太左衛門ニ被 仰付百石被下置、御奉公

仕処ニ、太左衛門病死仕、男子無御座付而、弟清右衛門ニ家督無相違

百石被下置、与板之御奉公仕候、 定勝様御代、御加増百石被下置、

其後 綱勝様御代、御鑓組之御足輕五十人被 仰付、病氣故

隠居仕、家督某ニ被 仰付、近年御金山奉行被 仰付、御奉公

相勤申候、以上

奥山大膳由緒

一、祖父大膳、本国は西国之内広嶋浅野但馬殿より御当家江牢人

仕、直江山城殿江罷出候、知行二百石被下置、小国ニ被差置、無程板谷落

居仕ニ付而、御大切ニ被思召、御足輕五拾人、祖父大膳ニ御添被成、板谷へ被遣候、

景勝様江板谷ニ而御目見度々仕候、其後病死仕、親ニ無相違家督

被 仰付、御奉公相勤、病死仕、家督無相違某ニ被 仰付、代々

板谷之将相勤申候、▲板谷ニ而討死仕候子孫、方々より罷帰ニ付而、右之

御足輕先年差上候、以上

嶋弥五兵衛由緒

一、曾祖父嶋孫左衛門、於越後直江大和殿江御奉公仕、御知行十五貫

文被下置候、則綱信之御書付未所持仕候、其後会津江御国替之時分、

孫左衛門名改門左衛門ニ罷成候、米沢江罷越、御知行百石被下置、最

上御陣ニ罷立候 ▲祖父彦左衛門義、右之門左衛門男子無御座ニ付而、山崎

五右衛門次男ニ御座候、聲名跡ニ罷成居申所ニ、各ニ御扶持切米被下

置、直江平八殿江奉公申候、両大坂御陣ニ罷立候、門左衛門死去仕、跡

式七十石被下置、其上直江山城守より御足輕五十人鑓組御預ケ被成候

一、定勝様御代、御加増被下置式二百石ニ罷成、御奉公仕、年寄隠居仕候、

実子彦左衛門家督無相違被下置其後 綱勝様御代、御使番

被 仰付、御加増百石被下置、三百石ニ罷成、其已後御足輕五十人御

鉄炮組御預々、御当代ニ御扶持方組八拾人被　仰付、其已後病

氣故隱居仕、家督拙者ニ被仰付、只今御奉公相勤申候、以上、

小林茂兵衛由緒

一、曾祖父小林助兵衛、実子無御座付而、同姓茂兵衛弟名跡ニ仕候、祖

父盛衛越後以来与板江奉公仕候、先祖ニ而忠進申上候留書所持

仕候、盛衛義、高麗御陣、大坂御陣之御供仕候、盛衛義、三百石ニ而御奉

公相勤、病死仕、実子親盛衛ニ家督百石被下置候、　綱勝様御

代ニ御加増百石被下置、貳百石ニ而御奉公申上候、年寄隱居仕、実

子無御座付而、東条主税三男拙者ニ家督被　仰付、御奉公仕候、以上

高野吉左衛門由緒

一、曾祖父高野孫兵衛、御普代ニ御座候、本知三百石被下置、御台所

頭仕候、大坂兩度之御陣ニ罷立、其上 景勝様御他界之節御

供仕相果申候、跡式嫡子与左衛門ニ貳百石被下置、御台所頭ニ被

召仕候 ▲親善左衛門義、右孫兵衛孫ニ御座候故、十五歳より 定勝様

御近習ニ被召仕、御膳番被仰付、亥之年寅之年兩度之御

上洛御供仕、已後御知行貳百石被下置、大小姓並ニ被召仕候、其後

与板組ニ被 仰付、御軍役相勤申候 ▲綱勝様御代ニ御使番被 仰

付、御加増百石被下置、三百石ニ罷成、其已後御中之間年寄被 仰

付、御加増拝領五百石ニ罷成、十六年御奉公仕候、去年迄五拾八年相

勤申候、年寄申ニ付而隱居仕、家督拙者ニ被 仰付、与板組江被召

加、御奉公申上候、以上

堀内仁兵衛由緒

一、祖父堀内権兵衛、信州より御当地迄御供仕、御奉公相勤申、御知行

百五拾石被下置、御足輕御預ケ被召仕候、然所ニ先年仙台より板

谷江押懸申節、板谷ニ而討死仕候 ▲権兵衛嫡子仁右衛門、次男弥兵衛

兩人共ニ若輩ニ御座候ニ付而、御知行被召上、親弥兵衛年立、五人ふちニ

御切米十五石被下置、御郡代御役所ニ而御用相勤申、病死仕候、跡式

拙者ニ無相違被下置、御扶持方組外之内ニ被召仕候、其已後開高

二百石野府申請、開作仕候、右之内百石拝領仕、与板組江被召加、其

後 生善院様御賄方被 仰付、廿四年相勤、当春御役御免被遊、

与板組江被召返、御奉公申上候、以上、

半田仁助由緒

一、親仁助、庄内より慶長拾四年御当地江罷越、直江山城守江小姓奉公

仕罷在候、同拾九年二大坂御陣ニ罷立、霜月廿四日御陣寄、其夜御手

立之様子かぎに、町田奎、大狭大蔵、近藤織部ニ被 仰付処ニ 親

仁助も申上候、一番目之かぎに罷出、敵持口迄見届罷帰候、

一、霜月廿六日之於戦場、最前より小口ニ罷在申所ニ、敵持口より罷出鉄炮

打懸候間、則仁助持口より罷出鉄炮打申所ニ、手を負働申

処ニ、志田修理、松本助兵衛見届被申候 ▲定勝様江右之趣志田

修理御披露申上候ニ付而、寛永八年九月十五日、御知行五十石被下

笹生伝之丞先祖之義

一、膳仲町笹生順藏、先祖与惣右衛門と申而、御扶持方組より、享保十一年六月十五日、役所役人より新知五拾石被成下、御勘定頭被 仰付、同十三年十一月三日死去、嫡子家督之節、永々与板組江被召入候者也

一、笹生源左衛門と申者、御扶持方組ニ而只今之代官町高梨善左衛門屋敷居、代々初代官と申ニ候処、不調法之義有之、寛政三年十月十一日切腹名字断絶被仰付候者也、然は此笹生は仲間町笹生又左衛門先祖力

置、同廿壹年三月十一日、御加増百五拾石被下置、同年九月廿五日二

築川江馬上六騎被遣候ニ付而、仁助義も罷越候、十三年御軍役相勤、

隱居仕、拙者ニ家督百石被下置、只今御奉公申上候、以上、

笹生伝之丞由緒

一、曾祖父笹生与惣右衛門、勘納之地被下置罷在候、其已後 謙信様関東被

入御手、上州厩橋之城代ニ北条安芸被差置、数多馬上被差添ニ付、与惣右衛門

も厩橋江被遣、廿ケ年余罷在、数度走廻り相勤申候、其節北条市兵衛先

祖長門、厩橋ニ被罷在候間、与惣右衛門身立可被存候、曾祖父与惣右衛門弟渋谷四郎右衛門、

新発田御一戦之砌、御忠進申上候、 景勝様より渋谷ニ御朱印御書被下置候、

四郎右衛門名跡無之ニ付而私ニ所持仕候 ▲与惣右衛門、越後江帰参之砌隱居仕、

祖父源左衛門ニ蒙督被 仰付候、源左衛門本名は鐫木仁左衛門次男与惣右衛門を賀

名跡ニ仕候、御国替之節米沢江罷越、無程最上御陣於簗谷城祖父

源左衛門高名式ツ仕、二ヶ所疵を蒙り、為御褒美白銀式枚拝領仕、

于今所持仕候、其已後須崎主税、源左衛門両人公事奉行被 仰付、相勤申候

一、定勝様寅之年御上洛ニ、祖父源左衛門知行式百石、親主馬ニ下置、騎

馬ニ而御上洛之御供仕候、其已後番手遠近ニ付而御勘氣被 仰付候、

綱勝様御代、被召出百石被下置、其已後御加増被下置、式百石ニ罷成、病死

仕候、跡式拙者ニ被 仰付、御奉公申上候、以上

南条八右衛門由緒

一、謙信様御代ニ、拙者祖父南条修理と申候、在所苅羽之郡之内

南条村知行被下置、御奉公仕候 ▲景勝様御代、祖父修理、北条丹後

一類二御座候付而、屋形様江御目見不仕、無足二罷在候節、越中魚津

城責二罷下由承及、直江大和殿江窺御内意、越中二而南条修理、同弥次郎

父子共二、天正十年六月三日討死仕候 ▲祖父修理魚津二而討死仕

砌は親八右衛門三歳二罷成候、年立申、直江山城殿江御奉公申候、大坂両

御陣二御扶持方衆十人御預ヶ被成罷登候、其後御足輕十人御預ヶ被成候

一、定勝様御代、親八右衛門、寛永三年、御前様御台所役人頭被 仰付、

江戸定詰御奉公申上候、御知行百石被 下置候、綱勝様御代、承応

三年迄親八右衛門御奉公申上、隠居仕候、拙者二無相違百石被下置、与板組江

被召加、御奉公申上候、以上

古川半左衛門由緒

一、曾祖父古川善兵衛、御国替之砌、信州より清水三河掣ニ御座候ニ付而、
同心ニ而御当国懸入石中山江罷越、其已後福嶋郡代被 仰付、御奉公相
勤、病死仕候、善兵衛男子無御座付而、板谷太兵衛掣名跡ニ仕候得共、病
死仕候、太兵衛実子無御座付而、清水久左衛門次男伝十郎名跡ニ仕候、
伝十郎義、十三歳より御近習御奉公仕、寛永十六年御知行五拾石被下置、
与板組江被召加、其已後名を改伝左衛門ニ罷成、寛文弍年御加増拝領
仕、弍百石ニ罷成、已後御中之間江被召加、病氣ニ罷成隠居仕候、家督拙者ニ
被 仰付、与板組江被召返、御奉公相勤申候、已上

木滑助左衛門由緒

一、祖父木滑源太左衛門、小国但馬家中罷在、天正十九年七月一日拾五貫

文被下置、馬上二被 仰付、重頼之御書付所持仕候 ▲慶長三年十月

廿三日、源太左衛門二知行三百石被下置、御黒印之折紙所持仕候、仙道之内

玉野井之御城下二組四拾五人被 仰付被差置候、其已後但馬宰人二

付而、直江山城守江奉公仕、源太左衛門隠居仕候、親勘解由二繼目百石被下置候

一、親勘解由、元和八年戌之年、最上御勢遣二罷立候、翌年御上洛御供仕、

其已後勘解由隠居仕、家督拙者二被下置、御奉公申上候、以上

鈴木半十郎由緒

一、曾祖父鈴木助左衛門、仙道之者二御座候、助左衛門病死仕、嫡子清兵衛二跡式

五十石、次男五郎右衛門二五十石被下置、御奉公仕候、五郎右衛門江戸御普請奉行

三度被 仰付、罷登候 ▲綱勝様御代二御加増被下置、貳百石二罷成、万治

四年ニ福嶋江拾五騎馬上並ニ被遣、数年御奉公申、五郎右衛門死去仕候、嫡子
舎人も五郎右衛門已前ニ死去仕付而、五郎右衛門孫拙者ニ跡式被 仰付候、委儀は
同姓利左衛門可申上候、以上

平賀三郎兵衛由緒

- 一、於越後平賀志摩、同惣左衛門と名乗、御奉公申上候、此者共之末々と申伝候、
- 一、祖父平賀三郎兵衛、直江山城守江奉公仕候、江戸ニ一類共定詰仕候而御用
等相勤申候、親左馬之助若輩之時より直江平八ニ近習奉公仕、大坂御
陣江供仕候、祖父三郎兵衛年寄申ニ付而、則御役義親左馬之助ニ被 仰付相
勤、其後与板組江被召加、御奉公申候、年寄申ニ付而隱居仕、拙者ニ家督無
相違百石被下置候、以上

小野里孫兵衛由緒

一、曾祖父小野里内記、越後より御当地迄御供仕、直江山城守殿李山之

田屋御預ケ、御用相達申候、身立は御扶持方ニ而御奉公仕候

一、祖父三左衛門義、嶋田庄左衛門郡代之時より御用相達申候、其節嫡子十蔵ニ

式百石之御判形被下置候得共、百石開申ニ付而与板組江被召加、百石之

御軍役仕候、十蔵病死仕ニ付而拙者ニ家督百石無相違被下置、只今御奉

公仕候、以上

富井与左衛門由緒

一、祖父富井新右衛門、山本寺家来ニ而奉公仕候、私親富井市郎右衛門、越後連大寺ニ

罷在、其後御当地江罷越申候処ニ、志田修理以取成、定勝様御前江

被召出、御奉公仕候 ▲私義、八歳ニ而親ニ付御当地江罷越、其後十八才ニ而

直江山城殿御供仕、江戸上下相勤、其後 定勝様江御歩行之御

奉公仕、亥之年寅之年御上洛御供仕、寅之年之御上洛ニ京都ニ而御

歩行御奉公御赦免被遊、与板組江被召加、御近習へ節々被召出、御奉公

仕故、新知百石被下置、御奉公仕候、以上

窪田源兵衛由緒

一、先祖窪田右近尉、於越後直江大和入道江奉公仕処ニ、元龜二年四月

廿四日二堀江駿河守敵地江被仰付被遣候砌、右近義被相添被遣候処ニ、

首尾好相稼、敵討取印持参仕ニ付而、高名神妙之由被 仰出、則

輝虎様より御感状拝領仕、于今所持仕候 ▲天正十五年正月十六日、於越後

吉田三ヶ村之内原卜納津二ヶ所被下置候、直江山城守判形所持仕候、

於越後は諸司代被 仰付、山田喜右衛門兩人相役ニ而御用相勤申、其節

右近名を替、源右衛門ニ罷成候 ▲天正十九年七月九日ニ雑太之地ニおいて、

小幡下野守知行分五百五十表之所被下置ニ付而、 景勝様より御朱

印所持仕候、慶長四年三月十三日、於米沢直江山城守より三百石之地

拝領仕、則春日右衛門所江之御書付所持仕候 ▲慶長四年十二月十

四日、御加増貳百石拝領仕、五百石ニ被 仰付、則両様一紙之御書付所持

仕候 ▲右之源右衛門、男子無御座付而、小林盛衛惣領を聲名跡ニ仕、

家督貳百石ニ被 仰付、名を源右衛門ニ改申候、其砌篠井弥七郎、

山田喜右衛門、春日右衛門、右三人之書出シ所持仕候、源右衛門実子伝吉義は

定勝様御近習ニ被召仕、源右衛門死去仕節、家督伝吉ニ被 仰付、

其後病死仕候、男子無御座候故、渋谷弥兵衛弟権兵衛聲名跡ニ

仕、家督無相違百石被下置候、権兵衛死去仕、男子無御座ニ付而、宮嶋

民部三男某聲名跡仕、御奉公申上候、以上

宇津江藤右衛門由緒

一、謙信様、 景勝様御代々、春日山府内両所之町奉行被 仰付、

宇津江若狭父子府内ニ被差置候、御殿御立、他国より使者御対面

として、 又は關東北国江御出馬之時、御門出として春日山より御下り

被為成、五十日も三十日も御逗留被遊、御出馬之段侍中江被 仰渡、御

人数御集、御直ニ御出馬被遊、其御吉凶を以、御樽御盃差上申候、毎年御

煤払之時も春日山より被為成候、御国替若松ニおいても右ニ不相替

町奉行、其上津川之郡被 仰付、御奉公申上候、米沢江御引越被

遊候而は年寄申ニ付而、無軍役ニ被 仰付、貳百石拝領仕罷在候、右之

御吉例を以、拙者より四代先藤右衛門代迄、正月廿日右之御樽御盃指上申候、

景勝様より御樽御盃手前ニ拝領仕、差置申候、於府内被下置候御書、

于今所持仕候、山城殿より後詰として地下之鑓、苅内町中より壺、貳

百も被相調、藤右衛門武主として可被指越御状、于今所持仕候、右之藤右衛門

実子無御座付、池田甚右衛門嫡子名跡ニ仕、宇津江外記と申候、百石拝領

仕候、右之外記ニ男子無御座付而、寺嶋喜左衛門次男名跡ニ仕、藤右衛門ニ

罷成、御奉公仕候、拙者之本名は立岩善右衛門末子、拙者七歳之時より

綱勝様へ御近習ニ被召仕、其後大小姓ニ被召加、無程与板組ニ罷成、

右之藤右衛門ニ男子無御座付而、御当代ニ宇津江名跡ニ罷成、御奉公申上候、

以上

村越藤左衛門由緒

一、曾祖父村越藤左衛門、後ニ志摩と申候、馬場美濃守与力ニ御奉公仕候、

信玄公御代、高名仕候場所員数、寛永十年 定勝様御代、御尋ニ付而

書上申候留御座候間、則今度写書上申候 ▲武田信玄、勝頼御代ニ御奉公

申候覚 ▲馬場美濃は左之御先手、馬上百五拾騎之内百騎は同心、諸

道具共ニ七百程、同心之内ニ而金丸弥右衛門ト某兩人之下知ニ而万事御先手之

差引申候 ▲駿河之内たきやうと申所ニ今川氏直御座候处、信玄

御働之節、正月十四日ニ御眼前ニ而鎗下之高名壺ツ仕、美濃守取次ニ而

被召出、御書被下候 ▲武蔵之内ミませと申所ニ北条氏政御座候を、

信玄公御働、十月三日御軍被成候、御眼前ニ而鎗下之高名壺ツ仕、

美濃取次ニ而御書被下候 ▲駿河之内蒲原之城、北条新三郎籠城

被申所ニ信玄公御働候得は、町廻輪江取出取合御座候時、御眼前ニ而

鎗下之高名ニツ仕、美濃守取次ニ而御書被下候、其時和田九兵衛兄

討死仕候、九兵衛連々承義も可有御座候 ▲同所之内花沢之城ニ

北条肥前と申仁、籠城被申候ニ信玄御働、御眼前ニ而鎗下之高名ニツ

仕、美濃守取次ニ而御書被下候事 ▲遠江之内味方原ニ而家康公ト

信玄御軍之時、御眼前ニ而馬を乗入、美濃守人数ニ而押破り、其時御眼

前ニ而鎧下之高名𦵏ツ仕、御帰陣之上被召出、御書被下、其上加増拾

五貫文拝領仕候

▲上野之内赤石と申所ニ而新田罷出、信玄トいくさ

御座候時、鎧下之高名𦵏ツ仕、御眼前へ被召出、美濃守取次ニ而御書被下候

一、右同国せんの城、是も新田之下城ニ御座候、信玄御取懸之時、鎧下之

高名𦵏ツ仕、美濃守取次ニ而御書被下候 ▲参河之内長篠之陣ニ而和田

兵衛太夫三拾騎計ニ而懸合、手負被申ニ付而、敵したひ不罷成候故、兵衛太夫

弟弥一郎と申仁すけ被申候刻、美濃守もすけ申度由、某ニ申候間、

美濃人数召連すけ申、兵衛太夫引取、こまんはと申所ニ弥一郎同

前ニ参候、是も和田九兵衛伯父ニ御座候間、連々承義も可有之候

一、其外参河、遠江、駿河、伊豆、相模、武蔵、上野、此国々江取懸被成候事、

十五ヶ年之内ニ御座候、美濃守ニ付添鎧下之高名之外、実験之首

廿六、七仕候、其時分は鎧下ニ無之候得は、実験帳ニ計載申候、鎧下之

高名は右覺書之通八ツ仕候、右之御書共は勝頼御滅亡之時、真木

之嶋と申城ニ罷在候処ニ、信長より津田藤三郎と申仁、武頭ニ而城を責

取申候時、取失申候 ▲三河之内長篠と申所ニ而、信長ト勝頼御軍

之時、左之御先手美濃守被仕、三度入乱之軍御座候処ニ、何も美

濃守仕内ニ、中一度は金丸弥左衛門ト某相渡本望ニ致罷退候、

敵之武頭丹羽五郎右衛門方ニ御座候、三度目ニは山形三郎兵衛、美濃守

馬を乗入、討死被致候故、勝頼負軍ニ罷成、帰陣被成、金丸弥左衛門も

此時討死仕候、定而此方も手ニ合候衆も可有之候

御当家江御奉公申上候覚、▲甲斐国くすれ、下々みだみだに

罷成候時、美濃守子共勝頼ニ付添、相果申候、其後家中之者計

真木之嶋罷在候所ニ、信長より津田藤三郎武頭ニ而城を責とられ申、

其時平林蔵人ト某何も相談申候得は、只今迄かたきニ仕候而、主人

無之とて城を相渡申事口惜存、美濃守同心、家中之衆へ平林ト

相談申、とかく越後之義は御普代筋ニ御座候間、彼藤三郎ヲ打取、

越後江御味方申可然由申ニ付而、何も尤と申候間、彼城江押籠、藤三郎

人数打亡シ、藤三郎ニ繩を懸、信長江おくり、其後平林ハ城ニ罷在、某ハ

越後江罷越、おうかと申仁を取次ニ而、山城殿江右之旨申候得は、

一段忠信之由被申、嶋津淡路守を以山城殿江罷出候、其後真木之嶋

城代申請候得は、芋川越前ヲ被遣候、無人数之間、先々罷歸同心之者共

五十騎計半途江罷出、越前供仕候、真木之嶋へ打入、其後信長より度々人

数被遣候ニ付而、重而加勢申請候得は、三俣九兵衛古海ト申仁二人数被

相添被遣候、九兵衛存生ニ候は可被存候 ▲佐渡御陣ニも芋川越前煩ニ付而、

家中同心共某ニ申付、備前は若時候得は、代ニ罷立、佐渡沢根ニ

あかりしふての城二口御座候を、芋川ト岩井備中先手ニ而御本望ニ

罷成候故、嶋津淡路取次ニ而山城殿江罷出候 ▲庄内大浦之城ニ嶋津淡路、

芋川越前被差置候処、一揆起り被及難義候時分、越前ニ付添、度々御奉公

申ニ付而、淡路守同心兩人某も山城殿江淡路取次ニ而罷出候

一、 關東之内松枝安中之城御責被成候節も、芋川越前ニ付添、御奉公申上候、

同所八王寺御責被成候時、芋川先手被 仰付候、其時も加賀後家之衆ト

問答御座候を一番ニ押籠、某も一番ニ入申時、手を負候而、山城殿江

罷出候、▲信州之内青柳ト申所へ小笠原働被申、麻績ト申城江取掛候

方々より人数計被遣付而、芋川も人数計出シ申候故、某召連罷出、城を

相渡不申敵破軍仕候、其時某も左之手負御奉公仕候

一、高麗御陣江も芋川同心百騎之内より四騎被召出、其内ニ而罷立候

一、若松へ御出、関東ト御取合之時も、白川ニ罷在候処ニ、平林取次ニ而御加増

式百石、同人并足輕五拾人御預ケ、白川万事之小口割人数之指引

被仰付候而、証人若松迄被召上候 ▲大坂御陣江も罷立、御奉公申上候、

御帰陣之已後、直江平八殿人数之内鉄炮百拾挺、鎗四拾丁組ニ山城守殿より

被 仰付候而、元九之年迄御奉公申上候、右は古ノ留書写差上申候

一、村越志摩、白川ニ而は知行六百石被下置、御国替ニ而米沢へ罷越候時分、

五百石被下置、御奉公仕候、委細同姓四郎左衛門申上候 ▲曾祖父志摩、元和

九年隱居仕、実子村越藤左衛門家督貳百石被下置候、寛永十九年、会

津江御勢遣候節、大熊伝兵衛組大筒五十人御預ヶ被成参候、同年御加増

被下置、三百石ニ罷成、御足輕五拾人御預ヶ被成候 ▲綱勝様御代、御番頭

被 仰付、其後福嶋郡代被 仰付、御奉公仕候、隱居仕、実子弥惣左衛門家督

被 仰付、其後病死仕候、男子無御座ニ付而、拙者聲名跡ニ被 仰付候、

拙者御馬廻之内西堀庄藏次男ニ御座候、某御奉公之義は、 綱勝様初而御

国入之年より御逝去之年迄御近習ニ被召遣、其後御馬廻組ニ御奉公仕、只今与板

組ニ罷在、御奉公申上候、以上

瀧沢庄蔵由緒

- 一、曾祖父瀧沢市兵衛、於越後山城普代ニ御座候、御知行三百石被下置、
会津迄御奉公仕候、渋谷治部左衛門次男右門、山城守江近習奉公仕候、
市兵衛男子無御座付而、右門贅ニ仕候、市兵衛死去仕付而、右門ニ家督
百五十石被下置、大坂御陣御供仕、手ヲ負申、其已後五十石御加増被下
置、貳百石ニ而御扶持方組被 仰付、無程御鉄炮組被 仰付、百石御
加増被下置、三百石ニ而御奉公仕候、名を相改与惣兵衛ニ罷成候、
一、寅之年之御上洛之節、御弓頭被 仰付、御供仕相勤申候、
一、定勝様御代ニ祖父与惣兵衛病死仕、親与三兵衛、幼少ニ而家督被 仰付、

寛文六年ニ病死仕、拙者ニ家督被 仰付、御奉公申上候、以上、

本村新助由緒

一、曾祖父本村新助、越後直江大和入道代々普代ニ御座候、於越中小

出御陣ニ討死仕候、其砌直江信綱より御書被下候、其後祖父新助所々ニ而働

申ニ付而、信綱より御感状御書共ニ八通、于今所持仕候、御当地御移之砌、祖父

新助ニ御知行百石被下置候、春日右衛門判形所持仕候、其後隱居仕、嫡子

左馬之助ニ家督被 仰付、大坂両御陣ニ罷立候、初之御陣ニ手を負

申候、其已後次男長作喧嘩仕付而改易被 仰付、其後被召出、御扶

持被下置、御奉公仕候、 定勝様御代ニ御知行五十石被下置、新助ニ罷成、御

奉公申上、病死仕候、家督実子某ニ無相違被 仰付、御奉公申上候、以上、

大熊名左衛門由緒

一、祖父大熊左門三男大熊勘左衛門儀、定勝様御代ニ新知百石被

下置、与板組ニ被召加候、其已後百石御加増仕、貳百石罷成御奉公仕候、病死

仕、私ニ家督被仰付候、先祖之義は同姓弥次兵衛可申上候、以上

唐国与助由緒

一、越後ニ而木村与助と申より某迄、五代ニ御座候、右之与助於大場印貳ツ

取申、景勝様御朱印之御感状頂戴仕、于今所持仕候 ▲信綱御判

形之御状三通之内、知行替地御訴訟申立相調、知行分三拾貫之御

軍役仕証文御座候、残るニ通はかるい川ニ而働申、無比類之趣并手負

申ニ付而、様体可被聞召御書面ニ御座候 ▲右之木村与助、唐国名字

被 仰付、唐国甚五左衛門と申、御当国ニ而二百石被下置、山城守御代官

被 仰付候、男子無御座付而、益田利右衛門次男聲名跡ニ仕、唐国

造酒と申候、甚五左衛門相果、跡式無相違被下置、御奉公仕候、造酒相果、

実子甚五左衛門ニ家督被 仰付、 綱勝様御代ニ御加増拝領仕、貳百石ニ

罷成、其後相果、実子弥次右衛門ニ家督被 仰付、甚五左衛門ニ罷成、御奉公

仕候、甚五左衛門死去仕、実子拙者ニ家督被 仰付候、以上

泉崎久兵衛由緒

一、祖父泉崎式部と申者、白川之内泉崎と申所知行仕罷在候、白

川之城主不説公より之御書所持仕候、親伝助義、 景勝様御代、御当地江

罷越、平林蔵人頼、御扶持拝領仕罷在候、其已後 定勝様御代、御金

山役頭被 仰付、知行百石被下置、御奉公仕候、伝助病死仕、実子
私二家督被 仰付、与板組江被召加、御奉公仕候、以上、

大峡武兵衛由緒

一、曾祖父大峡大蔵、甲州武田勝頼江奉公仕候、信州之内大峡屋敷と申

所二罷在候、没落以来越後江罷越御奉公仕、病死仕候、祖父大蔵二家督

被 仰付、会津米沢迄御供仕、大坂両御陣之時分、山城守伏聞組被

仰付、御足輕十人御預ケ、首尾好相勤、御帰陣之後伏聞組廿人二被成、

被 仰付候、病死仕、実子武兵衛二家督 被仰付、 綱勝様御代、右之

伏聞組被 仰付、御加増五十石被下置、百石二而御奉公仕候、御当代二隠居

仕、実子私二家督被 仰付、御奉公申上候、以上

馬場弥五右衛門由緒

一、馬場治部、山本寺家来ニ御座候、其後直江山城殿江御奉公仕候、治部死

去仕、跡式曾祖父馬場利兵衛ニ被 仰付、御国替之節、米沢御城代

春日右衛門ニ被 仰付ニ付而被相添罷越候、其砌最上御陣相勤、其後大坂

両御陣御手明組御預ケ被成候、其已後病死仕、繼目祖父孫右衛門ニ被 仰付、

百五十石被下置、御奉公仕、年寄隱居仕、親孫右衛門ニ家督被 仰付、御

奉公仕、眼病故隱居仕、拙者ニ家督 被仰付、御奉公仕候、以上

日浦次郎右衛門由緒

一、直江山城殿御代より曾祖父日浦次郎右衛門、慶長九年より江戸御台所

御役義被 仰付、知行百石被下置候、其後百石之御加増被下置、貳百石ニ

罷成、右之御用相勤申候、次郎右衛門病死仕、跡式祖父庄右衛門二百石被
下置、鍋嶋御前様御台所頭被 仰付、相勤申候、庄右衛門死去仕、実
子無御座付而、村越六之丞聲名跡二申立、五十石被下置、次郎右衛門二罷
成、与板組二而御奉公仕候、其已後会津御前様御台所御役義被 仰付、
御奉公相勤、病死仕二付而、拙者二跡式被 仰付、御奉公仕候、以上

五十嵐長三郎由緒

一、曾祖父五十嵐次兵衛、庄内大浦二罷在申候、於庄内数度之御一戰之時分、
走廻申二付而十四ヶ所手負申候、其後御当地江参、御扶持方並御奉公
仕候、右之手叶不申二付而、倉加野長左衛門を以被 仰渡、左鉄炮御前二而
打申候、其後 定勝様御代、御知行五十石被下置、与板組二被 仰付、御

奉公仕候、其後御加増五十石被下置、百石ニ罷成、夜盜組被 仰付、御奉公

仕候、病死仕、祖父次兵衛ニ跡式被 仰付、年寄申ニ付而隱居仕、次兵衛

孫拙者ニ家督被 仰付候、以上、

温井権右衛門由緒

一、曾祖父温井豊前、本国能登之者ニ御座候、景虎様御代ニ能州

御手ニ入、惣領与五郎、同妹兄弟証人ニ差上、其後豊前能登ニ而相果候

一、会津御国替之時分、兄弟共ニ被召連候処、与五郎義、無程会津ニ而死去

仕候、名字断絶仕候 ▲景勝様御代、右之与五郎妹、山上与五右衛門妻ニ被成、

定勝様御幼少之砌、御乳を上御奉公相勤申候、慶長十九年、平林判形

ニ而五百石之開作之地、与五右衛門ニ被下置候、然所温井名字之義、与五右衛門惣領

左内ニ被 仰付、右之五百石開判形之内、開立申候分左内ニ四拾三石被下置、御奉公仕、隱居仕、実子拙者ニ家督無相違被 仰付、御奉公相勤申候、以上

香坂十兵衛由緒

一、祖父香坂掃部義は、先祖左馬頭時分、信州真木之嶋居城、没落ニ

付而、幼少之時分落人ニ罷成、年来流浪仕、其已後信州江帰参仕、

景勝様御代、御合力被下置、御国替之砌、同姓一門同前ニ御供仕罷越候、

親七兵衛義は信夫ニ而窄人並々御扶持被下置候、拙者義は

景勝様御代ニ御扶持被下置、御当代ニ与板組江被召加、御奉公相勤申候、以上

長井清右衛門由緒

一、明暦元年九月、生善院様御中小姓被 仰付、御扶持御切米被下

置、御奉公仕候、其後御姫様松平飛騨様江御祝儀之節、致御供罷

越候、其節御加恩江戸ニ而被下置、御小姓之御奉公相勤申候、

御前様御逝去被遊ニ付而罷下、与板組江被召加、御奉公仕候、先祖之
義、同姓金左衛門可申上候、以上

計見権左衛門由緒

一、先祖之義、惣領計見又兵衛可申上候、拙者親主水は計見雅楽三男ニ

御座候、御歩行之御奉公仕、大坂御陣御供仕候、其已後 定勝様

御上洛之御供仕候、寛永十二年ニ病死仕候、拙者若輩故、御扶持

切米被召上候、其後拙者江戸江被召登、大御姫様江御奉公仕、御扶持

御切米被下置候、御祝義相濟申ニ付而御暇被下、与板組江被召加、御奉

公仕候、以上

白川次左衛門由緒

一、曩祖白川宗夢入道、越後之内白川五拾貫之所被下置、数年

御奉公申上候、則在名を名乗申由ニ御座候、然所ニ宗夢入道男子無御座付而、志田縫殿別腹之次男弥市を聳ニ仕、後ニ白川五左衛門と申候

一、越後之内萩と申所ニ松本大炊助城主ニ被差置節、為在番氏江弥惣、

安江弥九郎、湯山新十郎、白川弥市被遣候、諸々之御陣ニ罷立走廻り申候

一、会津御国替之砌、米沢ニ而上長井之内長橋百石之处被下置候、慶長三年

九月十日、春日右衛門、篠井弥七郎、両黒印之書面、于今所持仕候

中里李右衛門子孫無御座候

一、慶長五年最上御陣ニ罷立、御奉公仕候、慶長六年米沢江御移之砌、知行被召上、堪忍分ニ御扶持被下置、五左衛門跡式実子次左衛門家督被仰付、御扶持方組外之御奉公相勤申候、正保四年ニ与板組江被召返、御奉公申、病死仕候、男子無御座付而、五十騎組之内山田縫殿之丞次男某聲名跡ニ罷成、御奉公申上候、以上

立岩安左衛門由緒

一、先祖之義は同姓半三郎申上通ニ御座候、綱勝様御代、拙者十六之年より御扶持御切米被下置、与板組江被召加、御奉公申上候、以上

中里奎右衛門由緒

一、親孫左衛門、御歩行御奉公相勤、其後肝煎役被仰付、其已後与板

組江被召加、年寄申隱居仕、実子某二家督被 仰付、御奉公申上候、

先祖之義は同姓岩太郎可申上候、以上

西方半兵衛由緒

一、親西方作右衛門、本国会津之者二御座候、御一乱之節、横田式部二首尾

御座候而罷越、中山二罷在、同心切米御扶持被下置候、拙者之義、山浦玄蕃所二

奉公仕、已後 綱勝様御代、御扶持御切米被下置、御扶持方並之御奉

公仕候、先年 御上使御出之節、拙者卜正木市左衛門、度々御用達二御付

被成、御加恩被下置候、其已後与板組江被召加、并川樋村二而開作之地被下

置、御奉公仕候、以上

須崎六郎右衛門由緒

和田舎人子孫、与板二和田と申名字無御座候

一、先祖須崎左近、直江山城守江奉公仕、知行百石被下、御上洛之御供

仕節、道中御道具ニ付夜立仕候処、関東雀之宮ニ而夜盜取囲

狼藉仕ニ付而、多勢討留、御道具は子細無御座、其身は深手負即座ニ

死去仕候、右之跡式義、市兵衛幼少ニ御座候故、御知行被召上、御扶持御給恩ニ

被成、徳松様江御奉公仕、其後病死仕候、跡式嫡子惣兵衛ニ被下置、与

板組江被召加、御奉公申上候、病氣故隠居仕、拙者ニ家督被 仰付、御

奉公申上候、拙者本名は大河原ニ御座候、以上

新谷兵左衛門由緒

一、祖父新屋喜兵衛、直江山城守殿扶持方並ニ奉公仕、其砌鳥山監物跡

役御鉄炮薬之役被 仰付、御足輕五十人御預ケ、毎日為拵申、御蔵江

納置申候、喜兵衛死去仕、親平右衛門ニ跡式被 仰付、御奉公申上候、其後
与板組江被召加候、平右衛門年寄隠居仕付而、拙者ニ家督被仰付、御
奉公申上候、以上

和田伊左衛門由緒

一、祖父和田舎人、上州之内和田之者ニ御座候、関東御手ニ入申候時分、御当
方江罷越、於越後村上在番被 仰付罷在候、知行三百石被下置、
慶長二年伏見御普請奉行被 仰付相勤申候、会津江御国替之節、
米沢御仕置春日右衛門ニ被 仰付、其節北条右近、和田舎人兩人公事
奉行仕候、米沢ニ而三百石被下置、会津江為証人舎人物惣領織部ヲ差越
申候、則慶長五年最上御陣、町馬上、在郷馬上、出人鉄炮鎗預り罷立候

一、平林藏人諸司代仕時分、東条加々右衛門、和田舍人、兩人公事奉行

仕候、病死仕ニ付而知行被召上、舍人嫡子織部ニ御扶持被下置、御奉公仕候、

次男六右衛門ニも御扶持被下置、山城守中間之奉公仕候、三男左門事は

直江平八近習ニ拾五歳より奉公仕候、慶長十九年大坂御陣ニ罷立候、四男

七郎右衛門も御扶持被下置候 ▲定勝様御代、左門義御歩行之御奉

公相勤申候、然所ニ正保弍年、拙者先祖就御尋則桜井弥右衛門を以書付

差上申所ニ、定勝様入御披見、与板組江被召加、其已後病氣故隠居

仕候、男子無御座付而、御馬廻之内長尾伝兵衛次男某聲名跡ニ被

仰付、御奉公相勤申候、以上

高森 以下欠)

高森万右衛門由緒

一、拙者高森縫殿助次男ニ御座候、然所ニ瀧沢弥次兵衛上り御扶持

拝領仕、御奉公申上候、先祖之義は縫殿之助可申上候、以上

北條市兵衛由緒

一、曾祖父北条長門、越後北条在名御座候、▲景虎様御代、上州之内おふ

この城代ニ長門被差置候、其節沼田ニ被差置候小中大蔵娘、長門嫡子

右近ニ縁組仕ニ付而、小中ニ被下置候御書共、私所持仕候 ▲輝虎様御代ニ

上州厩橋之城代ニ北条安芸父子被差置ニ付而、おふこの城より長門父

子厩橋江被遣、安芸入道ニ御指添、奉行職被 仰付、相勤申候、則御書

所持仕候 ▲輝虎様、天正六年御遠行已後も右之上州ニ安芸入道、

長門父子罷在候処、甲州勝頼公、小田原氏直公より天正拾年迄之御書数通

所持仕候 ▲景勝様御代、直江山城守より今井源右衛門被申付、北条長門

越後江帰参仕候得は、再三上意之旨帰参仕、柏崎ニ罷在候、源右衛門儀は

長門甥ニ御座候 ▲景勝様奥御陣江御出張之刻、長門父子供奉

被 仰付、御帰陣已後、信州為奉行長門被遣候、其後隱居仕、実子

右近ニ家督被 仰付、村上江為横目在番ニ被遣候、無程会津御国替ニ

付、右近米沢江先達被遣、御二之丸ニ被差置、御知行三百石被下置、公事

奉行相勤申候、最上御陣ニ町馬上、地馬上、鎗鉄炮、出人御預ケ被成、八沼口江

被遣候、其砌為証人惣領市兵衛拾六歳之時、会津御城下江在詰申候、

会津より御移之節も知行無相違被下置候 ▲江戸御屋敷之将千坂

対馬、已後北条右近ニ被仰付、罷登相勤申内ニ、直江山城守より之書状共

于今所持仕候、無程須田九郎太郎不慮之義ニ付而、本田佐渡守様御意

違背申ニ付、早々御下シ被成、在郷被 仰付、翌年荒戸城代被 仰

付候、其節山城守より御祝義と候而備前友成之刀被下候、于今所持仕候、

大坂御陣ニは御留守居仕、後之御陣ニ惣領市兵衛、馬上ニ而供奉仕、

右近致病死、実子市兵衛ニ家督無相違被 仰付、御扶持方組御

足輕組三十人頭迄被 仰付、慶安元年ニ荒戸城代ニ被 仰付、

被差置候、病死仕、実子拙者ニ家督無相違被 仰付、無程御扶持方

組八拾人御預ケ被成、以後三十人頭被 仰付、只今御奉公申上候、以上

桜加右衛門由緒

一、桜孫左衛門、信州桂山ニ罷在、甲斐信玄公御簷下ニ付、知行三百貫

文之御判形、元龜元年九月朔日被下置、所持仕候 ▲孫左衛門死去仕、

実子靱負、信長公御手ニ入、知行右ニ無相違被下置判形之義、靱負筆

頭ニ而葛山廿一人之連書、天正拾年五月七日、森勝藏殿判形所持仕候、

一、景勝様より本領無相違、天正十年六月十八日被下置候、御判形所持仕候、

一、靱負義、米沢江御移被成、二百五拾石被下置、公事奉行被 仰付候、実子因獄ニ拾

七歳ニ而大坂御陣無足ニ而罷立、討死仕候故、靱負死去仕、名跡無之ニ

付而、弟久兵衛ニ貳百石家督被 仰付候 ▲久兵衛義、山城守江奉公仕、

知行百石被下候判形所持仕候、最上御陣之節、馬上ニ而罷立高名仕候、此段

先年御尋二付、寛永十年二先松本助兵衛所迄、久兵衛書上申候

一、私義、本名吉池ニ御座候、祖父吉池平右衛門貳百石被下置、大坂初之御陣ニ

罷立、已後病氣ニ罷成、実子善三郎、大坂後之御陣ニ貳百石ニ而立申候、

罷歸病死仕候、祖父平右衛門次之年病死仕候、私義、善三郎実子御座

候得共、幼少ニ付御知行被召上、桜久兵衛所江聲名跡ニ罷成候、本知貳百石

被下置、福嶋ニ罷在候所、綱勝様御代ニ御使役被仰付、百石御加増

被下置、三百石ニ罷成候、其後御鉄炮御足輕組五拾人御預ケ、只今迄

御奉公申上候 ▲於信州信玄公より軍役等之御判形、右之外四通所持仕候、

以上

町田八郎左衛門は町田清七郎先祖ニハ無御座候、

清七郎先祖は作左衛門と申候、尤同家と相伝候、

八郎左衛門子孫、御呵と相見候、只今子孫与板組

無御座候

一、祖父町田權助、信州井之上ニ罷在御奉公仕候 ▲定勝様御代、權助

走廻御奉公申上通、御尋ニ付而、書付差上申候留書所持仕候

一、甲州江御奉公仕候節、高名四ツ仕候、其時御感狀頂戴仕候、此存人館山之

内御足輕宮内右衛門と申者存候、右之御感狀、信州ニ而火失仕候

一、新発田御陣、関東御陣、奥御陣ニ而御奉公仕候内、高名十二度仕候、

右之内新発田御陣ニ而穗保城右衛門、其外ニも存者可有御座候、関東御

陣ニ而は坂田采女存申候、奥御陣ニ而は香坂太郎右衛門、坂田采女存申候

一、最上御陣之時分、御足輕五拾人、町之者八拾人御預ケ、春日右衛門手ニ而

先手被 仰付候、簀屋ニ而上泉主水組ニ大藤小太郎を初立合申所ニ、

鎗下之高名壱ツ、長谷堂ニ而高名壱ツ、其時銀子拝領仕候、右之高名

数ノ拾八度仕候 ▲最上御陣已後、和田村ニ新寄居被 仰付、御足輕

八十人、和田村一在所御預ケ在番仕、昼夜御奉公相勤申候、其砌直江山城守より

書状、于今所持仕候、其後茂庭之百姓共、仙台最上江欠落仕ニ付而、香坂

新左衛門、權助兩人ニ御足輕五十人被差添、妻子共ニ引越、三年罷在、

其内才覺仕、百姓共引返シ申ニ付、兩人共ニ米沢江被召寄候

一、大坂御陣之時分、權助病氣ニ而罷在候故、実子主殿御供仕、罷登候、

翌年之御陣ニも氣分□□無御座候得共、御足輕四拾人夫丸廿人被 仰

付、權助父子共罷立候、御帰陣以後、御足輕四拾人組ニ被 仰付、山城守

手廻ニ而御奉公仕候、右之趣先年御尋之節、親主殿書上申候

一、景勝様、会津江御移之時分、權助御供仕、米沢江罷越候、所々走廻御奉

公申上、其已後病死仕候、則跡式無相違主殿ニ被 仰付候、

一、定勝様御代、御加増拝領仕、貳百石ニ罷成、其後御使役被 仰付、三百石ニ而

御奉公仕候、其節官途仕八郎左衛門ニ罷成候、承応二年、江戸江罷登、在

番中ニ病死仕候、某ニ家督貳百石ニ被仰付、翌年より十人頭、于今仕候、

已上

東条作兵衛由緒

一、曾祖父東条佐渡、信州之内東条と申所在所ニ御座候、佐渡嫡子

東条加々右衛門、御当方様ニ而直江山城守より知行三百石被下候

一、伏見御普請之時分、祖父加々右衛門御普請奉行被 仰付、罷登候節、

大閤様御前江被召出、御盃頂戴仕、御紋之御羽折一御帷子一拝領仕、

御盃共ニ于今所持仕候　▲加々右衛門義、米沢ニ而三百石被下置、公事奉行被

仰付相勤申候内、從在郷公事之直目安差上申ニ付而、御足輕ニ而知行

三年被召上、無足ニ而右之役義相勤申様ニと被　仰付候、三年過、知行

御返シ可被成之所、三年目之九月病死仕候、▲親主税、無足ニ而罷在、大坂

御陣ニ御跡をしたひ罷登申候、御帰陣之上、御扶持被下置候

一、定勝様御代ニ主税義、御右筆ニ被　仰付、役義相勤申内、御知行五十石

拝領仕、以後御加増百五拾石被下置、貳百石ニ罷成候、　綱勝様御代ニ御

加増百石被下置、三百石ニ而御足輕組被　仰付、其已後三拾人頭被　仰付、

御奉公申上候、致隠居、拙者ニ家督被　仰付、御奉公仕候、以上

一、祖父中津川太郎兵衛、越後ニ而与板ニ罷在、御奉公仕候、慶長三年会津江

御国替之後、貳百石拝領仕候 ▲米沢下長井之内山口村ニ罷在候、以後

荒戸御城下ニ而御奉公仕候、元和二年、太郎兵衛死去仕付而、実子次右衛門ニ

家督百石被 仰付候▲親次右衛門、寛永廿年ニ御加増百石拝領、二百石ニ

被 仰付候、其已後三百石ニ被成置、御足輕組五拾人御預ケ、無程三拾人

頭被 仰付、以後病死仕、実子某ニ家督被 仰付、御奉公仕候、以上

香坂市右衛門由緒

一、先祖香坂能登、於信州居城は香坂と申所在名ニ御座候 ▲香坂能登

男子三人、香坂紀伊守、同善右衛門、同新左衛門、善右衛門は信州ニ而死去仕候、

紀伊守実子香坂四郎兵衛は新左衛門甥ニ御座候 ▲曾祖父香坂新左衛門、三百

石二而直江山城守供仕、米沢江罷越、以後米沢江御移国之節百石被召上、

貳百石二而御奉公仕候、大坂御陣二御足輕被仰付罷立、其已後隱居仕

申所二、隱居免二御扶持被下置、実子掃部二家督貳百石被下置候、

一、祖父掃部、於築川表須田大炊防戰之刻、白根と申所二而高名仕候、其後

郡江乗切二罷出、高名仕候 ▲立子山之武主小松喜右衛門三百石被下置

被差置候処二、心替仕候故、須田大炊掃部二申付、岩井鞆負所二而召取、則

若松江越被申候様子、嶋津孫右衛門可存候、右之通先年先松本助兵衛を以

書付指上申候留書二而申上候 ▲寛永拾四年、掃部福嶋江十五騎並二

被遣候已後、福嶋二而隱居仕、実子七左衛門二家督貳百石被下置、御奉公仕候、

七左衛門隱居仕、実子某二家督被 仰付、御奉公仕候、以上

上与惣兵衛由緒

一、景勝様越後ニ被成御座候時分、曾祖父上主水宰人仕、色部家中江

有付候而、隱居仕、実子無之ニ付而、同家中色部右衛門娘卜小嶋備後子ニ

取合名跡ニ仕、上主水ニ罷成候、其後色部所より暇を乞、高畠江引越申所ニ、

其時分御城ニ佐藤甚助被差置候、直江山城守より甚助ニ被申付、主水

儀御留御知行貳百石被下置候 ▲元和九年ニ館山江引越罷在候、御足輕

三十人御預ケ被成候、世忤二人御座候、兄甚兵衛、弟友之助と申候、主水隱居

仕、家督之義は貳百石之内百石ツゝ兩人ニ被 仰付候、其後甚兵衛二百石之

御加増被下置、貳百石ニ罷成候 ▲綱勝様御代、御使役被 仰付、三百石ニ

罷成候、其節官途仕、与惣右衛門と申候、其已後御厩方御預ケ被成候、拙者之儀、

佐藤甚助三男 二御座候、与惣右衛門実子無之 二付而、養子 二罷成候、与惣右衛門死去仕、家督某 二被 仰付、御奉公仕候、以上

針生弥右衛門由緒

一、某先祖針生藤藏、後弥右衛門と申候、越後 二而直江山城守江被召仕、御知行五百石被下置、病死仕、実子無御座 二付而、其已後針生数馬甥 二御座候付、名跡被 仰付候 ▲針生数馬義、直江平八江奉公仕候、其後御勘氣 二罷成候所、慶長拾九年、大坂御陣 二忍 二御供仕罷立、御帰陣之上被召出、知行貳百石被下置候、平八死去之後、後室江奉公仕候 ▲定勝様、亥之年之御上洛之御供仕候、数馬義於江戸病死仕候、実子無御座之处 二、正保二年、定勝様御遠行被遊候、翌年拙者義、数馬甥 二御座候付、

針生名跡二被 仰付、御知行百石拝領仕候、某本名は寺嶋与左衛門

三男二御座候、以上

須田善右衛門由緒

一、景勝様従会津御移之時分、祖父須田善右衛門、従加州罷越候所、御抱被成、御知行式百石拝領仕、御台所之万事御用并郡頭被 仰付、

四郡之差引迄仕候 ▲定勝様御代、親九郎右衛門開之御判形申請、千

三百石開指上申内、二百五拾石被下置候 ▲祖父善右衛門隠居仕候砌、

善右衛門御役義、無相違親九郎左衛門二被 仰付候、知方之義、拙者九郎左衛門

次男二御座候付而、祖父善右衛門跡式式百石某二被下置、与板組江被召加候、

慶安三年二九郎左衛門御勘気被 仰付候、拙者義も同前二被 仰付候、某義、

万治三年ニ被召出、御知行百石被下置、御奉公仕候、以上

塩井十郎左衛門由緒

一、祖父塩井玄蕃、越後之内竹町と申所ニ罷在候、其刻高麗御陣

御供相勤申候、其後会津御国替之時分御供仕、信夫之内庭坂ニ

被差置候、其節福嶋一乱之刻籠城仕候、其已後山城守より御知行百三

拾石拝領仕、御奉公申上候、親太左衛門義、平林藏人ニ首尾御座候付而、

藏人手廻ニ罷在奉公仕候処ニ、新御扶持切米被下、金山役義被 仰

付相勤申候、玄蕃跡式は次郎左衛門ニ被 仰付候、太左衛門、寛永十六

年ニ御知行百石被下置、金山奉行被 仰付、其後与板組江被召加、御

奉公申上候、已後隱居仕、某ニ家督被 仰付、御奉公申上候、以上

渡部善兵衛由緒

一、祖父渡部源次郎、越後御普代ニ御座候、会津御国替ニ米沢迄御供仕候、

一、景虎様より源次郎ニ被下置候御感状、于今所持仕候 ▲親善兵衛義、直江

山城守小姓並ニ奉公仕候、 綱勝様御代、正保四年ニ御知行百石拝領

仕、諸役御免ニ被 仰付候、其後隱居仕、実子拙者ニ家督被

仰付、御奉公仕候、以上

静田又右衛門由緒

一、親静田弥左衛門、御扶持方並ニ御奉公申上候、 綱勝様御代、慶安

四年ニ弥左衛門江戸御納戸役被 仰付、御知行百石拝領仕候、右弥左衛門ニ被下置候御扶持切米、某ニ無相違被下置、与板組ニ而御奉公仕候、弥左衛門

江戸ニ而病死仕候、家督拙者ニ被仰付候、実父は堀内治部世倅

聳名跡ニ罷成候、某上州中湊江御上米役ニ被遣候处、無程江戸御

納戸頭被仰付、御加増被下置、御奉公申上候、先祖之義、静田権兵衛

委可申上候、以上

小山次左衛門由緒

一、養父小山半兵衛親所生信濃ニ御座候、綿内与惣と申候、猪苗代

組之内小山左衛門娘ニ添、半兵衛幼少之時分、親与惣病死仕候ニ

付而、祖父左衛門ニ被致養育候付而、則祖父之名字を名乗申候

一、定勝様御代、新御扶持被下置、江戸御納戸役被仰付候

一、綱勝様御代、右之御納戸頭被仰付、御当代ニ新知五拾石拝領仕、御奉公

相勤申、隱居仕候、男子無御座付、私輦名跡ニ契約仕、家督被 仰

付、与板組江被召加候、某実父鳥山監物三男ニ御座候、以上

小見金左衛門由緒

一、曾祖父小見次郎左衛門、所生越後屋彦ニ御座候、御国替之節、御当地江

罷越候、直江山城守尋被申様は、於越後数度働たるもの可有之候、然所ニ

小見二郎右衛門被聞召付、堪忍分と被仰候而、御扶持被下置、御奉公仕候、最

上御陣ニ篠井弥七郎ニ被為付、馬上ニ而罷立、鎧下ニ而高名仕、馬鎧共ニ

奪捕仕候、馬は篠井弥七郎乗受ニ差越申候、鎧は松本助兵衛所へ指

越申候、于今右之鎧可有之候、歸陣之刻は山城守手廻ニ而御奉公申上候

一、定勝様御代ニ年老故隱居仕、嫡孫小見左助繼目無相違被 仰

付、其後御扶持御差紙役仕候 ▲御当代 二沢根伊右衛門 二御付被成、

御役義被 仰付相勤申候、久御奉公申上候とて御役御赦免被成、与

板組江被召加候、病氣故隱居仕、実子無御座付而、小見又兵衛世倅

私左助甥 二御座候付而、養子 二契約申上候所、無相違家督被 仰

付候、以上

遠藤十兵衛由緒

一、曾祖父遠藤長右衛門、於越後与板組之御奉公仕候、祖父十兵衛米沢江

罷越、御扶持方組江被 仰付、其已後御作事屋頭 二而御奉公申上候、十兵衛

実子 貳人、壹人は与板組之内倉井小兵衛、壹人は病死仕候、其後十兵衛

死去仕、名字断絶仕候、倉井小兵衛跡式清右衛門被 仰付、倉井

北条才兵衛子孫無御座候

清右衛門と申、庭坂ニ罷在候、某義右之清右衛門次男ニ御座候故、寛文

八年ニ名字御扶持拙者ニ被下置、与板組江被召加、御奉公仕候、以上

中川長兵衛由緒

一、養父中川善助、御歩行之御奉公久々仕付而、与板組江被召加候、其已後

病氣仕、実子無御座付而、半田仁助次男某聲名跡ニ罷成、跡式無

相違被 仰付、御奉公申上候、中川先祖之義、委承伝不申候、以上

町田弥五太夫由緒

一、明暦弍年ニ親町田三之丞、新御扶持被下置、与板組江被召加、御奉

公仕、其已後病氣罷成隠居仕候、実子無御座ニ付而、町田八郎左衛門次男

某ニ跡式無相違被 仰付候、先祖之義は町田八郎左衛門申上通ニ御座候、以上

北条才兵衛由緒

一、某義、先北条市兵衛次男ニ御座候、綱勝様御代、万治元年、新

扶持切米被下置、則与板組江被召加、御奉公申上候、先祖之義は惣

領市兵衛申上通ニ御座候、以上

坂田縫殿右衛門由緒

一、玄祖父坂田和泉、実子采女生国は信州ニ御座候、曾祖父

坂田采女、天正十年信州御一乱之時分、御当方様江御奉公申

上候、御知行三百石拝領仕、所々御陣ニ御供仕候、大坂御陣しぎの表ニ

おひて組討之高名仕候、其已後年寄申ニ付而隠居仕、嫡子縫殿右衛門ニ

家督二百石被仰付、与板組ニ而御奉公申上候、然所ニ采女隠居之身

立を被召出、二百石被下置、荒戸之御城代ニ被 仰付、十三年相勤死

去仕候、跡式次男五左衛門ニ五十石ニ被 仰付候 ▲祖父縫殿右衛門、寛永

七年、江戸御屋敷御殿御作事御座候ニ付、御普請惣奉行頭ニ被

仰付、三年相勤罷下、無程病死仕候 ▲親権兵衛ニ家督百石被 仰

付、寛永廿年ニ会津江御勢被遣候時分、騎馬ニ而罷越、同年七月死去仕候、

親跡式某ニ無相違被下置、御奉公仕、只今十人頭仕候、以上

計見又兵衛由緒

一、上条様之家老計見出雲は某之曾祖父ニ御座候、出雲子雅楽之助は

祖父ニ御座候、然所ニ上条様御家中ちりちりニ罷成候後、父子共ニ与板組ニ

罷成候処ニ、出雲ニは無役ニ貳百石被下候、雅楽之助ニは百五拾石被下置、

御軍役並ニ被召仕候処ニ、寛永五年ニ死去仕候、家督無相違親又左衛門ニ被仰付、又左衛門、寛永十二年ニ病死仕、私ニ家督六拾石被下置、万治三年二百四拾石御加増拝領仕、貳百石ニ罷成候、椎野清右衛門替ニ寛文四年ニ高畠江被遣罷在候、以上、

尾崎清右衛門由緒

一、曾祖父尾崎孫十郎、後官途仕三郎左衛門と申候、生国信州尾崎之郷白鳥分知行仕候、岩井備中同国飯山之地ニ被差置、則城下ニ居住可仕由被仰付罷在申候、從輝虎様より被下置御書、于今所持仕候一、祖父仁助、三郎左衛門嫡子ニ御座候、然所ニ大坂御陣之刻、御勘氣を蒙り、翌年之御陣ニ罷立申候、其後国御横目被仰付、御知行百石被下置、

与板組江被召加、其已後御加増百石被下置、貳百石ニ而御奉公申上候、

一、親清右衛門義、仁助男子無御座ニ付而、宮本四郎左衛門次男聳名跡ニ仕、

家督無相違貳百石被下置候、其後御勘定頭被仰付、数年御奉公申上、

病死仕、某ニ跡式被 仰付、御奉公申上候、以上

坂次郎右衛門由緒

一、祖父坂次郎右衛門、生国は会津蒲生源左衛門家中ニ罷在、坂小判と申、

数度之働仕候、其後致窄人候 ▲御当家様江御抱、次郎右衛門ニ五百石、

嫡子庄次郎ニ貳百石被下置、父子共ニ七百石之御軍役仕、大坂御陣ニ

平林内匠ニ御添、出人御足輕三拾五人召連罷立候、其已後於江戸石垣

御普請御座候ニ付而、父子共ニ兩度罷登申候

一、定勝様御代ニ次郎右衛門、三拾人頭被 仰付候已後、死去仕候、嫡子少次郎ニ

跡式百石被下置、三百石ニ而御使番被 仰付、其節次郎右衛門ニ罷成候、

江戸惣外輪之御堀普請奉行被 仰付、相勤罷下、病死仕候

男子無御座故、次郎右衛門甥ニ御座候須田九郎左衛門三男某聲名

跡ニ被 仰付、御奉公申上候、以上

大俣八左衛門由緒

一、曾祖父大俣八左衛門、住国信濃望月と申所ニ而、御知行百石被下置、

御奉公仕候 ▲景勝様御代ニ会津江御国替之以後、山城守より御知行式

百石被下、御足輕五拾人御預ケ、其後大坂御陣ニ実子彦六召連御供仕、慶長

拾九年霜月廿六日之御一戦ニ玉作口ニおひて、父子兩人甥壺人ニ所ニ討

死仕候 ▲大坂御帰陣之上、彦六妹ニ高野孫兵衛嫡子弥四郎、八左衛門賀

名跡ニ上意を以被 仰付、二百石被下置候、以後名を改八左衛門ニ罷

成候、 定勝様御代、福嶋江御横目ニ被 仰付、片桐藤右衛門祖父八左衛門

被遣候、御役義数年相勤、老後ニ隱居仕、実子平右衛門ニ本知弍百石

被下置、御奉公仕、其已後死去仕、実子私ニ跡式被 仰付、御奉公申

上候、以上

遠山金左衛門由緒

一、某親遠山檢校、関東之者ニ御座候、 御当家様江罷越、直江後室之

御抱ニ罷成、以後定勝様御近習ニ御奉公仕ニ付而、御扶持御合力金被

下置候、 綱勝様御代、明暦元年ニ檢校跡式御知行六拾石被下置、

与板組江被召加、御奉公申上候、以上、

駒形太兵衛由緒

一、祖父駒形内匠、信州桂山之内朝盛と申所ニ罷在候、親太兵衛七才之

年祖父内匠病死仕候、実子太兵衛若輩故、知行被召上、越後与

板江被召寄、伯父渋谷治部左衛門ニ御預ケ、成人仕直江山城守歩行

小姓奉公仕候時節、御勘氣ニ罷成、信夫庭坂ニ被差置、無程大坂御陣御

座候ニ付、忍ニ御跡より罷登、大坂しぎの表ニおひて高名仕、右之身立ニ

被召仕、御帰陣御供仕候 ▲定勝様御代、寛永拾二年、親太兵衛

組外之御扶持方ニ被召加、御奉公仕、其後 綱勝様御代、正保二年ニ

新御知行百石拝領仕、与板組江被召加、寛文二年ニ病死仕候、

石黒平左衛門子孫御呵と相見得、只今

与板組ニ無御座候

一、某寛永拾二年、親跡御歩行御奉公相勤申、其後親跡式被

仰付、御奉公申上候、以上

石黒平左衛門由緒

一、祖父石黒采女、越後御普代ニ御座候、然所ニ直江山城守小姓並ニ奉

公仕、知行百石被下置、最上御陣ニ丸田図書組ニ而馬上ニ而罷立候、

御帰陣以後、小姓組拾人預り申候、右之内鉄炮ニ付而、組之者兩人迄

不調法御座候故、采女共ニ御勘氣ニ罷成候、大坂御陣之節被召出、御扶持

御切米被下置、右之組御預ケ罷立候、病死仕、家督親次郎右衛門被 仰付候、

綱勝様御代ニ御納戸頭被 仰付、御知行百石被下置、親子共ニ江戸

定詰仕候、拙者義、各ニ御扶持切米被下置、与板組江被召加、御奉公仕候、

親次郎右衛門隱居仕、某二家督被 仰付、御奉公申上候、以上

河越庄兵衛由緒

一、祖父久太夫、生国は信州葛山之者二御座候、御当地江御国替之時分
御供仕、百石拝領仕候、最上御陣二馬上二而罷立候、其後從会津米
沢江御移之時分、何も同前二御扶持切米二而御奉公仕候、

定勝様御代、新御知行五拾石被下置、御奉公申上候、病死仕、男子
無御座二付、中里与左衛門次男聲名跡二家督被下置、其後隱
居仕、実子拙者二無相違家督被 仰付、御奉公申上候、以上

名絶

益田庄左衛門由緒

一、曾祖父益田利右衛門、於越後二与板二罷在、直江山城守納戸被申付候、

御国替会津御当国迄罷越、知行百石被下、納戸役ニ而大坂兩御陣

相勤申、病死仕候、実子三郎右衛門ニ蒙督無相違被下置、右之役

仕候処ニ、山城守死去之已後、与板組江被召加、其後隱居仕、実子無

御座付而、立岩善右衛門次男聲名跡ニ仕、庄左衛門と申、御奉公仕候、

庄左衛門無程病死仕候、男子無御座ニ付而、梅沢仙右衛門世倅某ニ

跡式被 仰付、御奉公申上候、以上

須賀太郎左衛門由緒

一、親太郎左衛門、直江平八江近習奉公仕、其已後本田安房殿江御付候、

安房殿加賀江被参ニ付而、組外之御扶持方ニ被召仕、其後与板組江

被召加候、太郎左衛門実子無御座ニ付而、小嶋次左衛門弟角右衛門

世倅某養子ニ罷成候、右之太郎左衛門隱居仕ニ付而、某ニ家督被

仰付、御奉公申上候、祖父雲心御奉公之所、拙者若輩ニ而他名

継申候得は、委承伝不申候、以上

上倉七兵衛由緒

一、祖父上倉茂左衛門、信州飯山之地ニ被差置候、御当地江御国替已後、御

知行二百石ニ被仰付、大坂後之御陣ニ小嶋大学兩人ニ御歩行衆

九拾人被仰付、御奉公相勤申候、其已後御足輕組御預々被成、支配仕候

一、茂左衛門病死仕、男子無御座ニ付而、原田盛右衛門嫡子横田終安

ためには孫七兵衛聲名跡ニ申立、家督弐百石被仰付候、已後

御加増拝領仕、御使役被仰付、定勝様御供仕、江戸江罷登、寛

永廿年二病死仕候 ▲親七兵衛跡式百石拙者二被下置、其已後

綱勝様御代、御加増拝領二百石二被 仰付、只今十人頭仕、御奉公

申上候、以上

金右衛門事
上山安之丞由緒

一、祖父上山七郎右衛門隱居仕候翌年被召出、御知行百石被下置、直江

平八江御付被成候、然所二米持次右衛門兼而七郎右衛門掣二御座候付而、

祖父存命之内名跡申立、病死仕付而、隱居之百石次右衛門二被下

置、上山名字二罷成候、江戸御納戸御用相達申、定詰仕候、

一、上山次右衛門、江戸二而病死仕二付、嫡子源太繼目百石被下置、右之

御役相勤申候、源太死去仕、実子無之付而、弟金右衛門二名跡被

仰付、百石被下置候 ▲上山金右衛門御奉公之義、幼少より 定勝様

御近習ニ被召仕候、其後 綱勝様御抱守被 仰付、其已後百石

宛兩度ニ御加増被下置、三百石ニ罷成候、其後御抱守御赦免被成置、

小道具組被 仰付候、金右衛門病死仕ニ付而、実子某ニ歳之時、

繼目百五拾石被下置、与板組江被召加、御奉公仕候、先祖之義は同名

八郎右衛門可申上候、以上

猪野権之丞由緒

一、猪野茂右衛門義、会津之西方より最上御一乱之時分、伯父横田終安所江

参候、終安中山城代ニ御座候付而、終安同心扶持被出、中山八百石之御

領所代官被申付候、終安死去之後、御知行五拾石拝領仕、其後御加増

致拝領、貳百石ニ被 仰付、其已後御鉄炮御足輕五拾人被 仰付、三百石ニ而御奉公仕、茂右衛門男子無御座ニ付而、泉崎伝助三男某聲名跡ニ契約仕候、茂右衛門死去仕、拙者ニ家督被 仰付、御奉公申上候、以上

佐藤半助由緒

一、先祖右京嫡子玄蕃迄は大和守殿家来ニ御座候、忠信之働有之

付而、從 景長右父子共ニ知行被下候判形ニ通御座候、▲祖父九郎兵衛、御扶持方ニ被召仕、其上大筒御鉄炮組拾人御預ケ被差置候

一、定勝様御代、祖父佐藤九郎兵衛義、御右筆ニ被 仰付、御知行百石拝領仕候、其已後江戸御作事屋奉行ニ罷登、後御中屋敷御預ケ被成、

百石御加増被下置、貳百石ニ罷成候 ▲左文字之刀、藤原輝虎三寸是ヲ

上ルと御座候御腰物、先祖より持伝申候を、寛文九年、御当代ニ親半助

差上申候、其節時服ニ銀子五枚拝領仕候 ▲親半助、御右筆ニ被

召加、新御知行百石被下置候、祖父九郎兵衛知行之内百石御加増、二百石ニ

罷成候、其後御中之間五人之番頭並ニ被 仰付、御奉公仕候、其已後

病死仕ニ付而、実子拙者ニ家督被 仰付、御奉公申上候、以上

穗保八兵衛由緒

一、曾祖父穗保城左衛門、越後ニ而鮎川孫次郎普代ニ御座候、然所ニ

孫次郎不仕合御座候付而、為名代家中之足輕等引廻、高麗御陣ニ

罷立候、其後主計ニ鮎川名字被 仰付付而、主計ニ付添、最上御陣ニ

罷立候、右之主計、加州江罕人仕候節、右之城左衛門覺之者ニ御座候

由ニ而、直江山城守所より知行弐百石ニ而大坂両御陣罷立、奉公仕候、其已後

城左衛門隱居仕、同姓掃部ニ右之知行無相違家督被 仰付、御

奉公仕候、掃部御勘氣ニ罷成、御赦免之節、五拾石被下置、御奉公仕候、

掃部隱居仕、実子無御座ニ付而、甥ニ御座候城左衛門名跡ニ兼約仕ニ

付而、家督無相違被 仰付、御奉公仕、城左衛門実子無御座ニ付而、拙者

義蓼沼造酒末子ニ御座候、養子ニ契約仕、已後城左衛門隱居仕、

拙者ニ家督被 仰付、御奉公仕候、以上

佐藤十左衛門由緒

一、拙者儀、寛永拾三年ニ 定勝様江戸御参府之致御供、

罷登候、翌年迄御奉公仕、御下之後、徳松様江御奉公被 仰付、

其已後 大御姫様江御祝儀前被召仕、正保三年親九郎兵衛ニ

被下置御知行之内、五拾石拝領仕候、綱勝様御代ニ与板組江被

召加、御奉公仕候、先祖之義は同名半助所より可申上候、以上

静田権兵衛由緒

一、祖父静田彦兵衛、越後御普代ニ御座候、景勝様御代ニ佐渡之

御代官被 仰付、会津江御国替之砌、米沢江被遣、新宿ニ被差置候、

其節仙台より敵押懸申所、首尾を合仙台勢押返シ申ニ付、山城守

被感、御知行百五拾石拝領仕、大坂両御陣ニ御足輕御預ケ御供仕候、其已後

致隠居、実子久左衛門家督無相違被 仰付、以後彦兵衛ニ罷成候、

田代市郎兵衛子孫無御座、寛政初頃、

断絶二相成候由承候義御座候

一、定勝様御代ニ親彦兵衛義、御使番被 仰付、御加増百五拾石被下

置、三百石ニ而御奉公申上候、祖父彦兵衛、連齋ニ罷成、 定勝様御夜詰ニ折々

罷出候 ▲寛永十八年、親彦兵衛病死仕、跡式兄彦兵衛二百石、拙者ニ五

拾石被下置、御奉公申上候、以上

大河原平兵衛由緒

一、某先祖之義、惣領大河原太郎右衛門申上通ニ御座候、 定勝様御代ニ親

平兵衛病死仕ニ付而、太郎右衛門二百石、拙者ニ五拾石被下置、御奉公

申上候、以上

田代市郎兵衛由緒

一、拙者祖父田代七右衛門、芦野より窄人仕、 景勝様御代ニ御当地江

罷越、直江山城守より五人扶持被下、定勝様御代ニ御知行五拾石

被下置、其已後病死仕候、実子市郎左衛門ニ跡式無相違被下置、与

板組江被召加、御奉公仕、死去仕候、実子拙者ニ跡式被仰付、御奉

公申上候、以上

森六郎兵衛由緒

一、森善兵衛弟善助、御扶持方組外ニ而御奉公申、病死仕候、善助

三男某、綱勝様御近習御奉公仕候、御遠行已後、御扶持切米

被下置、与板組江被召加、御奉公申上候、先祖之義、惣領森吉右衛門申

上通ニ御座候、以上

五十嵐弥次右衛門由緒

一、某儀、五十嵐徳左衛門次男ニ御座候、新御扶持被下置、会津

御前様江御奉公申上、御表方之取次役御使役共ニ仕候、御前様

御遠行已後、与板組江被召加、御奉公申上候、以後延宝弍年ニ御上米

役被 仰付、上州中之湊江每年被遣候、先祖之義、惣領五十嵐弥右衛門

申上通ニ御座候、以上

山宮弥五兵衛由緒

一、祖父山宮次郎右衛門、越後笹岡ニ罷在候、馬上並ニ御奉公相勤申候、

御国替以後、大坂御陣御供仕相勤罷下、以後隱居仕、家督実子

利助ニ被 仰付候、次郎右衛門ニも隱居扶持被下置候、利助義、江戸

御堀普請ニ罷登相勤候、正保四年ニ御金山奉行被 仰付、慶安

五年迄相勤候、右之役御赦免、与板組江被召加、年寄隠居仕ニ付而、家督拙者聲名跡ニ被仰付候、実父小鷹半兵衛次男ニ御座候、
以上

高橋利兵衛由緒

一、祖父高橋次郎右衛門、越後之者ニ御座候、御国替已後、於御当国山城守より親奎右衛門御扶持切米被下置、御歩行組江被召加、御上洛、大坂両御陣御供仕、其已後与板組江被召加、御奉公仕、病死仕候、跡式実子某ニ無相違被 仰付、御奉公申上候、以上

武頭

合二百拾九人

与板組

延宝五年八月吉日

宰配頭

松本助兵衛

三拾人頭

本村造酒

同

岩崎孫左衛門

同

安部藤兵衛

同

太田与次右衛門

同

北条市兵衛

元禄二年十一月写之

村越四郎左衛門

其時之番頭

高梨源五郎

村越四郎左衛門

津田仁左衛門

五十嵐弥左衛門

横田弥五左衛門

